

新課程2年目の 指導に向けて

今年4月の入学生から、新学習指導要領に基づく教育課程（以下、新課程）が実施されています。
Guideline読者の先生方にこれまで半年の指導を振り返っていただくと、本格導入された観点別評価、さまざまな科目における探究活動、「総合的な探究の時間」「情報I」「歴史総合」に代表される新設科目の指導などにご不安を抱えながらも、工夫して指導している様子がうかがえます。

夏から秋にかけては、各高校が2023年度に使用する教科書を検討するとともに、2025年度入試（新課程入試）の方向性も明らかになりつつあります。

そうした状況で、これからの高校教育をどのように充実させ、大学入試への準備を進めていくのか。新設科目を中心に、先進事例から考えます。

CONTENTS

Part 1

新課程の指導の現在

➔ p25

- 高校教員アンケートより
- 2025年度入試の方向性
- 新課程2年目に向けた準備

Part 2

新設科目の指導

➔ p30

- | | | |
|------------------|---------------------------------|-------------|
| ● 地理探究 | 岡山県立岡山朝日高校 小河泰貴 先生 | 河合塾講師 松本聡 |
| ● 日本史探究 | 筑波大学附属高校 大庭大輝 先生 | 河合塾講師 平野岳美 |
| ● 世界史探究 | 東京都立青山高校 角田展子 先生 | 河合塾講師 坂本新一 |
| ● 現代文（論理国語・文学国語） | 神奈川県立多摩高校 石原徳子 先生 | 河合塾講師 梅澤眞由起 |
| ● 古典探究 | 京都市立紫野高校 中島涼太 先生 | 河合塾講師 坂下由香里 |
| ● 理数探究 | 広島県立広島国泰寺高校 檜山由美子 先生
長谷清史 先生 | |

Part 3

指導内容の変更

➔ p54

- | | |
|----------------|-------------------|
| ● 英語－4技能5領域－ | 芝浦工業大学柏高校 佐藤修二 先生 |
| ● 統計教育（数学・情報） | 立命館宇治高校 稲葉芳成 先生 |
| ● 消費者教育（公民・家庭） | 群馬県 |

新課程がスタートするも不安や課題が山積み

Point

- ✓ 新学習指導要領に基づいた指導がスタート
- ✓ 新設科目の指導、観点別評価の実施に課題
- ✓ 新課程入試の方向性が徐々に公表される

高校教員アンケートより

新設科目の指導や観点別評価に不安

今年度から、高校でも新しい学習指導要領に基づく教育課程（新課程）が年次進行でスタートした。

新学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、＜資料1＞のような構造が示されている。主なポイントは以下である。

- ① これからの時代に必要となる **資質・能力** を三つの柱に整理
- ② **主体的・対話的で深い学び** の実現に向けた授業改善
- ③ それらの実現に向けた **カリキュラム・マネジメント**
- ④ **観点別評価** を高校でも本格的に導入
- ⑤ 多くの科目を再編＜資料2＞

①～③を意識した教育改革は、文部科学省の検討方針等が公表される中で、多くの高校が2010年代半ばから

進めてきた。一方、④観点別評価や、⑤新設科目の指導については、今年度からスタートする学校が多く、戸惑う先生方も少なくない。

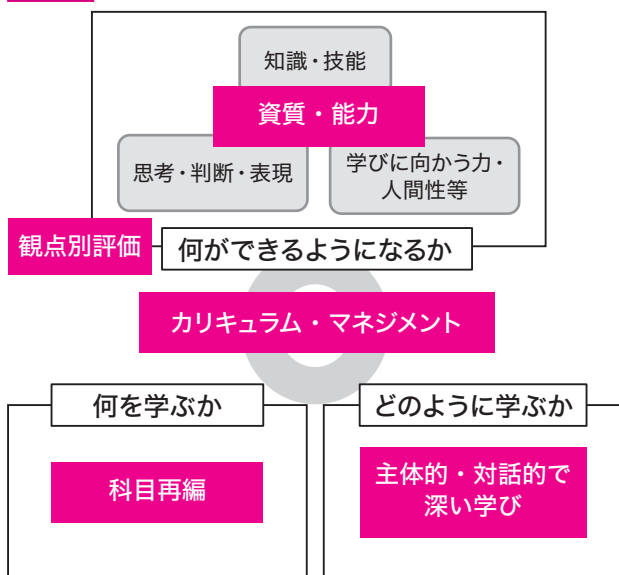
＜資料3＞は、Guideline読者の100人の先生方に聞いたアンケートの結果である。

これを見ると、夏までの新課程の指導について「うまくいっている」は6割にとどまる。

また、新課程の指導、新課程入試に向けた指導については8割が「不安」と回答。特に、観点別評価と新設科目の指導については不安・課題を感じる先生方が多い。

新設科目の中でも、不安を感じている先生方が特に多いのは「情報Ⅰ」で、「総合的な探究の時間」、「地理総合」「歴史総合」「公共」、「数学C」が続く。大学入試での扱いがなかなか公表されないことに加え、入試科目の増加や探究活動の重視などにより生徒の負担が増加することなどが懸念されているようだ。

資料1 学習指導要領の構造



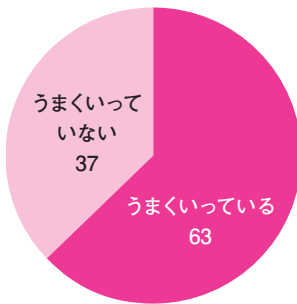
資料2 科目再編のポイント

国語	「現代の国語」「言語文化」が必修 「論理国語」「文学国語」の履修が焦点
地理歴史・公民	「地理総合」「歴史総合」「公共」必修 B科目→探究科目で単位数減
数学	新設の「数学C」にベクトルを移行 文系でも「数学C」の履修が実質的に必須化
外国語	「論理・表現Ⅰ～Ⅲ」を新設 教科全体で4技能5領域の育成を重視
情報	「情報Ⅰ」を必修修化 共通テストでも新設
総合探究・理数	「総合的な探究の時間」が必修 教科「理数」を新設し、選択可能に

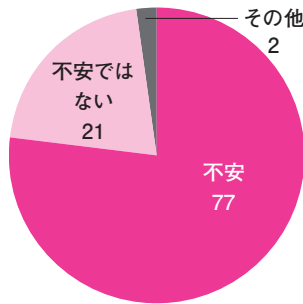
資料3 夏までの新課程指導の状況と不安

※河合塾Guideline 7・8月号アンケート（2022年7～8月に実施、回答100件）より

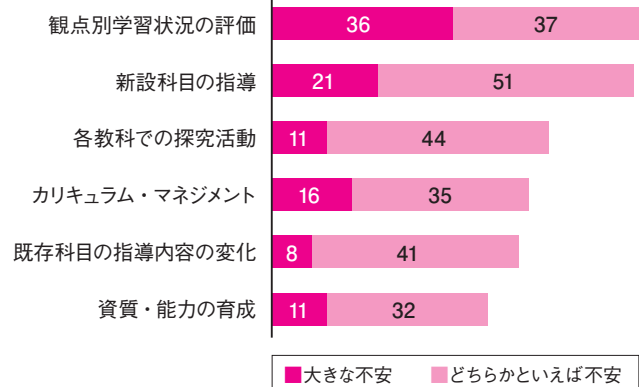
夏までの新課程の指導



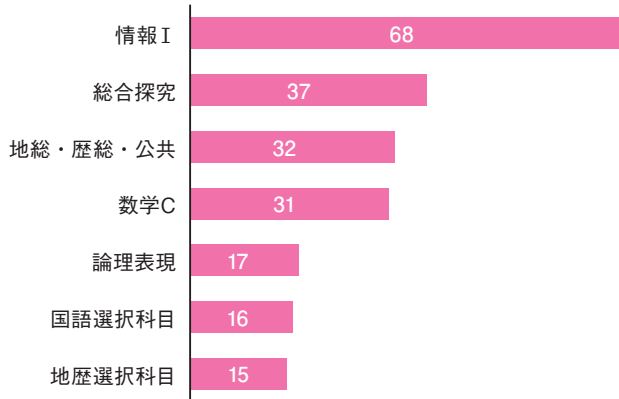
新課程への不安



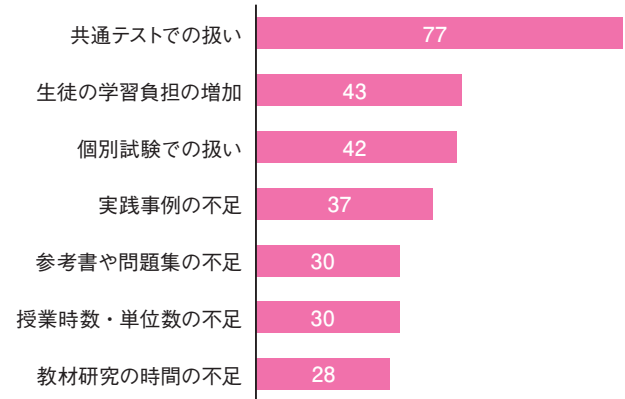
新課程の指導に関する不安、課題



指導に不安がある新設科目（15件以上抜粋）



不安の要因



新課程の指導への不安の理由

情報については、どのレベルまで指導をすべきか、非常に悩んでいます。また、現時点で指導できる人材に限りがあるため、具体的な指導計画を練れない状態です。

情報Ⅰは1年で履修しているが、3年次で補習を組むのかどうか、またその担当者は？

歴史総合で扱う内容の多さに比して単位数が不足している

1年次の国語4単位は明らかに不足。また、2年次以降の論理国語と文学国語と古典探究の単位数もどうにもならない。

準備に必要な時間やICT等の活用などインフラが整いられない。**情報**は指導教員不足が大きい。英語では**論理表現**の教科書から文法要素が削除されているため、骨太な英語力を身につけられるかが大変不安。

総合的な探究の時間は、プロセスの設計を重視しようとするだけでなく教員の負担が大きくなります。先見のある教員の強い意志により進められ、結果的に進学実績の向上につながったという事例が多く、結局マンパワーに頼らざるを得ないので、特定の教員に負担が大きくなるのが不安です。

2学期以降の指導で改善したいこと

1学期に行った**観点別評価**の仕方を再検討して、2学期以降の評価の仕方を改善するようにしています。またそれと同時にルーブリックの改善、シラバスの次年度へ向けての変更なども行う予定です。

観点別評価の妥当性については検証する必要があると感じています。

観点別評価のミスをなくすために評価シートを作成したい。

観点別評価の基準作りが遅れていたのを、運用しながら改善していきたい。

スクールポリシーがまだ未検討なので、そこから逆算するようにして生徒たちに身につけさせるべき力とそのための指導について長期的視野に立って考えたいです。ICTを使っていかに時間対効果を上げていくか。また学びに向かう力や探究力を高められる教育システムの構築を急いでやりたいです。

個別最適化した学びをどのように実現するのか。課題については、量よりも質にどのようにシフトできるのか考えたいです。

資料4 2025年度共通テストにおける変更点

教科	出題科目	変更点	経過措置 科目設定	サンプル (R3.3)	試作問題 (R4.11)	モニター (R4.11)
国語	国語	多様な文章を提示するため 試験時間が90分へ				○
地理歴史 公民	地理総合、歴史総合、公共	必修科目を含む6科目を設置 最大2科目選択が可能（組合せに一部制約あり） 「地理総合、歴史総合、公共」選択者は 出題範囲から2科目を選択解答	○	○	○	○
	地理総合、地理探究 歴史総合、日本史探究 歴史総合、世界史探究 公共、倫理 公共、政治・経済					
数学	① 数学Ⅰ、数学A 数学Ⅰ		○		○	
	② 数学Ⅱ、数学B、数学C	出題範囲に数学Cを追加 選択解答項目が2→3へ増加 試験時間が70分へ	○			
情報	情報Ⅰ	科目新設 試験時間は60分	○	○	○	○

※大学入試センター資料から河合塾で作成

2025年度入試の方向性

共通テスト『情報Ⅰ』などが焦点

試作問題作成、各大学の入試科目の公表も進む

アンケートにおいて多くの先生方が不安の要因として挙げた、2025年度以降の大学入試（新課程入試）に関する検討状況を見ていこう。

＜資料4＞は、現行の大学入学共通テスト（以下、共通テスト）からの変更点をまとめたものである。

情報が新設されたほか、地理歴史、公民、数学で**出題科目の変更**が見られる。出題内容の増加により、国語と数学②は**試験時間が長くなる**。

また、地理歴史、公民、数学、情報では、現行課程履修者への**経過措置科目が出題**される。情報の経過措置科目『旧情報（仮）』は、「社会と情報」「情報の科学」の共通部分に対応した必答問題と、選択問題を出题し、どちらを履修しても不利益が生じないようにされる。

今年11月には、地理歴史、公民、数学、情報（『旧情報』（仮）も含む）について、各出題科目の全体の構成がわかる**試作問題（配点付き）が公表**される予定だ。

また、同時期に、大学1・2年生を対象として『情報Ⅰ』『旧情報（仮）』『国語』『地理総合、歴史総合、公共』の試作問題によるモニター調査が実施される。

現時点で判明していない配点や時間割などは、＜資料5＞のようなスケジュールで公表される予定である。

今年の夏頃からは、いわゆる「2年前ルール」により、

資料5 2025年度共通テスト公表スケジュール

スケジュール	公表主体	主な公表内容
2022年11月	大学入試センター	問題作成の方向性 （地理歴史、公民、数学、情報の試作問題（配点付き）含む）
2022年度中	各大学	入試科目の予告 （共通テスト利用科目含む）
2023年6月頃	文部科学省	試験の実施方針
	大学入試センター	経過措置を含めた出題方法、科目選択方法、問題作成方針
2024年6月頃	大学入試センター	出願方法、時間割

※大学入試センター資料から河合塾で作成

共通テストの利用科目や個別試験の入試科目を公表する大学も増えてきた＜資料6＞。

共通テスト『情報Ⅰ』は、国立大学の多くが必須で課す方向だ。ただし、『情報Ⅰ』の成績は配点しない（北海道大）、配点を低くすることを検討（筑波大）といった対応をとる大学も見られる。

『地理総合、歴史総合、公共』は、利用不可とする難関大が多い。なお、公民については、現行課程では『倫理、政治・経済』のみ認める難関大が多いが、新課程では『公共、倫理』『公共、政治・経済』ともに受験可能としている。

ほか、数学の科目構成の変更により、**東京大の個別試験で「数学B」の統計分野を新たに出題範囲に加える**といった変更もある。各大学が公表する情報に注目したい。

資料6 2025年度入試における共通テスト利用科目の状況(国立大抜粋)

『情報Ⅰ』

必須	他教科との選択	課さない
旭川医科大、帯広畜産大、北海道大、室蘭工業大、弘前大、筑波大、宇都宮大、電気通信大、東京大、東京外国語大、東京学芸大、新潟大、静岡大、三重大、大阪大、奈良女子大、徳島大、九州大、九州工業大、長崎大、熊本大 など	北見工業大、筑波技術大	金沢大(文系一括、理系一括)
いずれも9月末時点。 最新の情報は大学のホームページ等をご参照ください。		

『地理総合、歴史総合、公共』

利用不可	利用可
旭川医科大(医-医)、北海道大、東北大、電気通信大、東京大、東京外国語大、名古屋大、三重大(人文、教育、医-医など)、大阪大、神戸大、奈良女子大(文など)、九州大、長崎大(教育-中学校文系、情報データ科学(文系))など	旭川医科大(医-看護)、帯広畜産大、北見工業大、室蘭工業大、筑波大、宇都宮大、豊橋技術科学大、三重大(工、生物資源、医-看護など)、奈良女子大(理など)、九州工業大、長崎大(一部を除く)など

※9月末時点、河合塾調べ。一般選抜(前期日程)について判明分を抜粋して掲載。

新課程2年目に向けた準備

改訂の趣旨や各大学の入試情報に注目し
教科指導のさらなる充実を

今年の夏には、2023年度に使用する教科書を検討するため、新課程において主に2年次以降に設置される科目の教科書見本本を目にした先生方も少なくない。また、秋から冬にかけて、新課程入試の概要が徐々に明らかになっていく。目の前の生徒の指導を充実させながらも、新課程2年目の教科指導に向けて、右記のようなトピックを具体的に検討し始める学校も多いのではないかな。

こうした状況を踏まえ、本コーナーのPart.2・3では、主に2年次以降に設置される科目の特徴や、教科・科目の連携による資質・能力の育成について、高校における先進事例から見ていく。

また、河合塾では、学習指導要領分析や、各大学の最新入試の情報等を、ホームページでも紹介している。これらもご参照いただきたい。

[新課程2年目の指導に向けた検討事項]

- ・「世界史探究」「論理国語」等、主に2年次以降に設置される科目の教材研究
- ・既にスタートしている「歴史総合」「現代の国語」等からの指導の接続
- ・「世界史B」→「世界史探究」等の、学習指導要領改訂の趣旨や教科書の変化を踏まえた授業改善
- ・大学入試に向けた「情報Ⅰ」等の補習の必要性
- ・各教科の特性に応じた、観点別評価や探究活動のブラッシュアップ
- ・言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力といった、学習の基盤となる資質・能力の育成
- ・主権者教育、ESD等、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成
- ・2023年度入学生の指導に向けた、今年度の「情報Ⅰ」「歴史総合」等の指導の振り返り

参考情報



Guideline2021年10・11月号
「高校新課程の実施に向けて」

- 200校超の高校新教育課程分析
- 学習指導要領のポイント解説
- 「情報Ⅰ」「歴史総合」「公共」等の先行事例を紹介

※Kei-Net(河合塾の大学入試情報サイト)にて記事の全文を公開

河合塾 ガイドライン

河合塾 高等学校学習指導要領分析

- 主要6教科の学習指導要領を詳細分析
- 共通テストサンプル問題分析
(『地理総合』『歴史総合』『公共』『情報Ⅰ』)

河合塾 学習指導要領

河合塾の大学入試情報サイトKei-Net

新課程入試 大学公表資料リンク集

- 判明した大学から随時掲載・更新

河合塾 新課程入試

Part 2

新設科目の指導

地理探究

監修 河合塾
地歴・公民科講師
松本聡



改訂のポイント

「地理探究」の科目の構成は<図>の通りで、次の三つの大項目から構成される。

「A 現代世界の系統地理的考察」では事象からのアプローチ、「B 現代世界の地誌的考察」では地域からのアプローチを行い、「C 現代世界におけるこれからの日本の国土像」では、「地理総合」も含めこれまでの学習で習得した知識・技能、「社会的な事象の地理的な見方・考え方」を活用し、これからの日本の国土像を探究していく。

高校教育への影響

「地理探究」では地図の読図や作図、ICTの活用、地理的な見方・考え方を生かして解決すべき課題・問いを設定する活動などが不可欠だが、「地理B」の標準単位数4単位に対し、「地理探究」は3単位と1単位減っている。限られた時間の中でこれらの探究活動と、基礎的知識の学習を両立させることが授業の課題になるだろう。

また、「地理総合」が必修修化されたが、専門教員が

少なく、地理を専門としない教員が「地理総合」を担当する場合もあるため、校内フォロー体制を充実させ、「地理総合」との接続を工夫する必要もあるだろう。

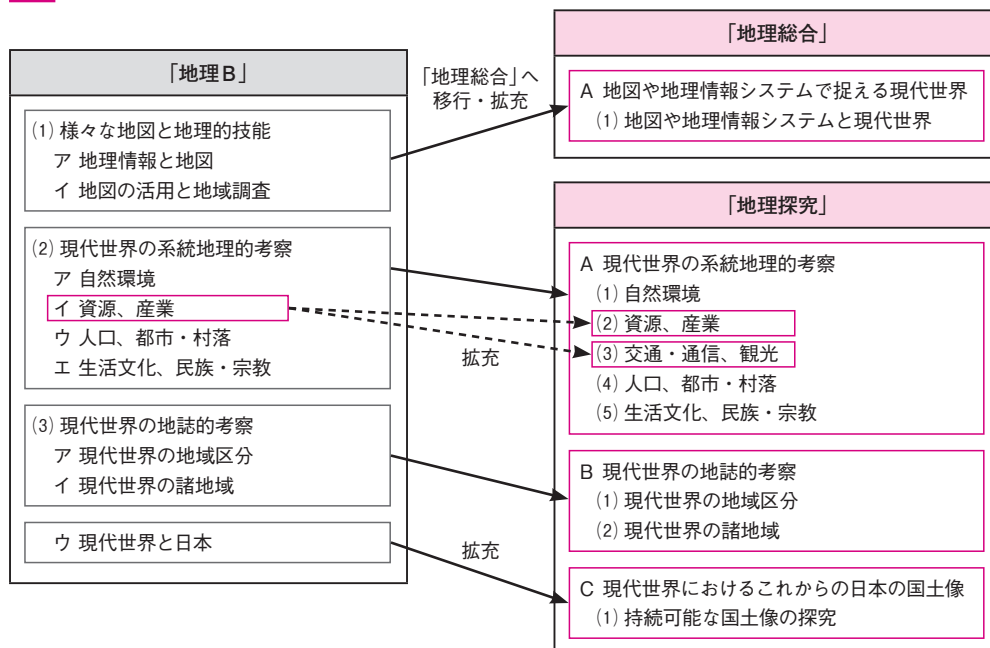
大学入試への影響

2021年3月に公表された共通テスト「地理総合」のサンプル問題では、設問形式に場面設定を用いるなど、思考力や判断力を試す設問が中心であった。また、課題とその対策、そしてその成果などの因果について問う設問も見られた。

2022年度共通テストを見ても、これまで通り受験生に対して初見の統計資料などを用いた図や表が多く使用され、ひとつの設問の中で理論についての理解と、その理論を用いた知識の運用が可能かどうかを測る組み合わせ形式の設問が増え、単純な知識のみで正答が得られる形式の設問が減ったため、受験生の負担は大きくなっている。

「地理探究」のサンプル問題等は未公表だが、同様の方向性と予想される。重要事項を暗記するだけでなく、「なぜそうなるのか」を重視した学習を充実させたい。

図 「地理探究」の構成



(学習指導要領解説をもとに河合塾が作成)

「地理総合」で学んだ内容との接続を意識して 幅広い視野から課題の解決策を提案する学習を

地理探究

岡山県立岡山朝日高等学校

Point

- ✓「地理総合」で身につけた地理的な見方・考え方を深めるための課題を設定
- ✓「開発コンパス」等のツールを活用し、提案型の問いに対応できる力を育成
- ✓知識を網羅的に扱うのではなく、テーマに沿ってダイナミックに考えさせる



小河泰貴 先生

教える内容に大きな変化はないが 教え方には工夫が求められる

次年度から「地理探究」の授業がスタートする高校もあるが、ご不安を感じている先生方も多いのではないかと。小河泰貴先生が勤務する岡山県立岡山朝日高校では、2年次で「地理総合」、3年次で「地理探究」を教えることになっており、まだ「地理総合」も始まってはいない。しかし先生は、「地理総合」の内容を踏まえた授業実践の経験があり、「地理探究」の教科書にもかかわり、国際地理オリンピックの日本代表メンバーの選出にも携わっている。そこで「地理探究」の指導ポイントについてうかがった。

小河先生が最初に指摘するのは、小中高での地理教育の連続性だ。「地理教育では、総合的な視点と専門的な視点を交互に育成していく連続性が大事だと思っています。小学校では地理というよりは社会的な視点を養い、中学校に進むと、社会科の地理的分野で初めて地理的な見方・考え方を学びます。高校に進むと、『地理総合』において中学校で学んだ内容を総合的に捉えるような学習を行い、さらに『地理探究』では、それまで学んだことを活用して地理的な見方・考え方を深めるという構造になっています。つまり、『地理探究』は、小学校から連続的に学んできた社会現象を地理的な視点から捉える力を、さらに深化させる教科だと捉えることができます」

とはいえ、「地理探究」で教える内容そのものは、従来の「地理B」とそれほど大きく変わってはいない。すでに周知されている通り、「地理B」の大項目(1)「様々

な地図と地理的技能」が「地理総合」の大項目Aに移行・拡充され、「地理B」の大項目(2)(3)が少しずつ拡充されているといった程度だ。

コンテンツベースでの変化は、「地理探究」の大項目A「現代世界の系統地理的考察」の中に、「交通・通信、観光」が新たな中項目(3)として立てられたこと、大項目Cで「持続可能な国土像の探究」が掲げられたことだが、小河先生は大項目Cにとりわけ注目する。

「各社の『地理探究』の教科書を見ても、大項目Cに割くページ数が増えています。また、地域経済分析システム(RESAS)などのツールの活用方法に加え、さまざまな問かけが用意されています。つまり『地理探究』では、大項目A、Bを踏まえた上で、持続可能な国土像について探究することが求められているわけです。小学校からずっと学んできた総仕上げが、『地理探究』の大項目Cにつながるというイメージでいいと思います」

今年度からの学習指導要領を見ても、小学校から学んできた知識・技能を活用することが期待されている。「地理総合」で、身近な生活圏についてそれらを活用するアプローチを学び、「地理探究」では、そのアプローチや研究手法を日本全体にまで広げ、持続可能な国土像を考えさせる流れになっていると見るができるだろう。

提案型の解決策を見出すことが 地理教育の国際標準に

「地理探究」の指導を考える上で参考になるのが、国際地理オリンピックの問題だと小河先生は指摘する。

「国際地理オリンピックでは、提案型の問題が必ず出

題されるからです。世界大会の開催地でフィールドワークを行い、その地域がどのような課題を抱えているかを見つけ出し、それを解決する方策を提案していくような問題が出題されます。実は、こうした提案型の問いは、地理教育の世界的なスタンダードになりつつあります。地理学という学問の枠にとどまらず、『市民性』を育成するところまで持っていこうという大きな流れを感じます」

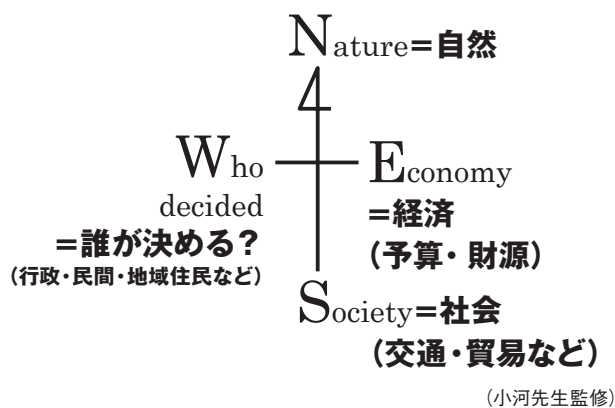
国際地理オリンピックの世界的大会や日本大会の問題には、かなり練られた良問が多いため、その問題を使った授業も想定できる。ひとつの大問のなかにきちんとストーリーがあり、最後に提案型の問いを持ってくることで多く、「地理探究」の大項目Cはもちろん、「地理総合」の趣旨にも沿っているからだ。とはいえ、相当幅広く考えないと解けない問題が多いのも事実だ。そのため、伝統的な地理のコンテンツからはみ出すような知識も必要で、総合力が試されるような側面が強い。

「地学的な要素や、植生など生物学的な要素、数学の知識など、多面的、多角的なアプローチが求められます。現在の教育は、コンテンツ重視からコンピテンシー重視へと大きく流れが変わりつつありますが、地理教育においても、従来の地理のイメージを少しずつ変えていく必要があると考えています」

こうした提案型の問いに対応できる指導ツールのひとつとして、小河先生が紹介するのが「開発コンパス」^(注)だ。複雑な物事を理解し対処するアプローチであるシステム思考は現在の地理学習で重視されている。そのシステム思考を推進するためのツールのひとつとして位置づけられており、地理教育にかかわる先生には広く知られている。国際地理オリンピックの日本代表の強化研修でも使われており、東西南北の方位を示すNSEWにそれぞれ、Nature、Society、Economy、Who decidedを当て、解決策を考える際の指針としている<図表1>。

「地域の課題を解決しようという場合には、自然要因や社会状況（交通、貿易、経済など）を考える必要があります。また、改善策を提案したときに誰がそれを決めて主体的に動くのか、さらにその解決策を実行するための予算的な裏付けはあるのか、といったことを考えながら、実行可能な解決策を考えていくわけです。とくにヨ

図表1 開発コンパス



ーロッパの地理教育では、財源の根拠が示されていない提案は不十分だとされています。このツールは地理学だけににとどまらず、あらゆる社会問題に取り組む際の思考の枠組みとして活用できるものだと思います」

「地理総合」で学んだ内容の理解に加え 地理の5つの視点の理解も必要に

「地理探究」を指導する先生方の心構えとしては、何が求められるのか。小河先生はまず、「地理総合」と「地理探究」の連続性を挙げる。

「具体的な教材研究という点では、これまで先生方が積み重ねられてきたものを大きく変える必要はないと思っています。しかし、少なくとも自分の高校の『地理総合』で何を学習したのかを踏まえた上で教材研究を行うことが大切だと思います。『地理B』の4単位と比較し、『地理探究』の標準単位数は3単位へと減っており、授業時間も限られているため、重複を避ける意味でも、『地理総合』での学習を踏まえた内容にするべきでしょう」

また、教科書の内容を網羅的に扱うのではなく、主題学習へと授業の方法を変えていく必要がある。これは地理教育の言葉でいえば、静態地誌から動態地誌へということになる。

「静態地誌とは、教科書の内容を満遍なく順番通りに教えていく方法ですが、時間がかかります。一方、動態地誌とは、何かテーマや主題、問いを持ってきて、それを考える上で必要な知識を、生徒に能動的に学習させる方法です。知識の漏れや抜けが生じるデメリットはあり

(注) 1980年代、イギリスの Development Education Centre が提起したもの

図表2 「地理的な課題」として考察する際の5つの視点と問いの例

①位置や分布	位置の規則性を見だし、分布の規則性、傾向性を示す要因を考える。
	「どのような位置関係にあるのか」「なぜそこに位置するのか」
②場所	場所の地域的特色を明らかにし、他の地域との比較により地方的特殊性と一般的共通性を探る。
	「それはどのような場所なのか」
③人間と自然環境との相互依存関係	自然からの制約とそれに対応した伝統的生活様式、自然環境への働きかけと自然環境の改変を明らかにし、地域の環境開発や環境保全の在り方を考える。
	「そこでの生活は、周囲の自然環境にどのような影響を与えているか」
	「そこでの生活は、周囲の自然環境からどのような影響を受けているか」
④空間的相互依存作用	空間的な関係性の要因を考察することにより、人や資源、財、情報などの不均等な分布を地域的に理解し、地域的特色の形成を明らかにするだけでなく、今後の地域開発や地域間の関係改善への課題を見だし、地域の将来像を構想する。
	「そこは、それ以外の場所とどのような関係をもっているのか」
	「なぜ、そのような結び付きをしているのか」
⑤地域	分布のパターンからどのような一般的共通性の下、場所の特徴からどのような地域的特殊性をもち、人々の生活と自然環境がどのように関わり、他地域とどのように結び付き、それらがどのように変容しながら、現在の地域が形成されたかを考察する。
	「その地域は、どのような特徴があるのか」「この地域と他の地域ではどこが異なっているのか」
	「どのような地域にすべきか」

(学習指導要領解説をもとに河合塾が作成)

ますが、能動的に学ぶことでその知識をダイナミックに捉えられるメリットがあります。私はすでにそういう授業スタイルを実践しています」

たとえば、「なぜマレーシアが多民族主義、多民族国家なのか」という問いを出しておけば、各民族が集まった理由、資源の世界的な需給の状況、各国の政治体制など、さまざまな知識が必要になる。そういう多角的な視点は大学入試でも求められるようになっており、主題学習は地誌を学ぶ上で効果的な学習方法のひとつだといえる。

「系統地理の場合は、たとえば大項目A(4)「人口、都市・村落」の部分に従来通りに系統的に学んだ後、日本ではどういう課題があるのかということを考える必要があります。『地理探究』の教科書を見ても、その分量は増えており、たとえば人口の箇所では日本の少子化問題についてかなり丁寧に記述されています。最後は自分ごととして考えるような方向へと促すためにも、時事的な問題への関心を高めることを意識した指導は必要です」

「地理総合」が必修修化されたことなどにより、地理が専門ではない先生が「地理総合」や「地理探究」を教える可能性もある。小河先生は、「かなり難しいと思います

が」と前置きした上で、次のようなアドバイスをくれた。

「地理学には、『位置や分布』『場所』『人間と自然環境との相互依存関係』『空間的相互依存作用』『地域』という5つの重要な視点があります<図表2>。まずは授業準備に入る前段階として、これらの視点についての基本的な内容を理解しておくといいでしょう。その上で、各種研修会に参加したり、学会誌を読んだり、ネット上の共有サイトにアクセスしたりすることをお勧めします。生徒の学びが大きく変化するわけですから、教員も学び続けなければなりませんし、これからは教員にこそ主体性が求められるようになるのだと思います」

岡山県立岡山朝日高等学校

◇所在地：岡山県岡山市中区古京町2-2-21

◇創立：1874(明治7)年

◇卒業生数：2022年3月卒業生344名

◇卒業生の合格実績：国公立大246名／私立大659名 ※いずれも過年度卒生を含む延べ人数

日本史探究

監修 河合塾
地歴・公民科講師
平野岳美



改訂のポイント

「日本史探究」は、歴史的経緯を踏まえた現代の日本の課題の探究を目標としている。

「日本史探究」は下記3点を主な特徴としている。

- ・時代の転換を歴史的な環境から考察し、生徒が自ら問いを表現する
- ・生徒が立てた問いについて資料を活用し仮説を立てる
- ・「歴史の解釈、説明、論述」を通じた知識、概念の深い理解を重視

科目の構成は<表>の通り。4つの大項目のうち前近代までを扱う「A 原始・古代の日本と東アジア」「B 中世の日本と世界」「C 近世の日本と世界」では、さまざまな資料を活用し、歴史の展開や伝統と文化への理解を深める。近現代を扱う「D 近現代の地域・日本と世界」では「歴史総合」を含め、これまでに学習してきた知識や歴史的な見方・考え方を活用し、現代の日本の諸課題について多面的・多角的に考察をするという構成になった。

表 「日本史探究」の構成

大項目	中項目
A 原始・古代の日本と東アジア	(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 (2) 歴史資料と原始・古代の展望 (3) 古代の国家・社会の展開と画期 (歴史の解釈、説明、論述)
B 中世の日本と世界	(1) 中世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と中世の展望 (3) 中世の国家・社会の展開と画期 (歴史の解釈、説明、論述)
C 近世の日本と世界	(1) 近世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近世の展望 (3) 近世の国家・社会の展開と画期 (歴史の解釈、説明、論述)
D 近現代の地域・日本と世界	(1) 近代への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近代の展望 (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造 (4) 現代の日本の課題の探究

(学習指導要領解説をもとに河合塾が作成)

ている。全体を通して「時代の転換」に関する知識・理解については特に重視されており、各大項目のまとめでは「画期」を表現することが獲得目標とされている。

高校教育への影響

「日本史探究」の標準単位数は3単位であり、「日本史B」と比較すると標準単位数が1単位減っている。扱う範囲は「日本史B」とほぼ同様だが、「時代を通観する問い」の設定や、生徒に仮説を立てさせるといった探究活動も加わる。これらの指導は時間を割いて丁寧に行うことが必要であり、授業時数が足りるかが一番の懸念事項だろう。

教科書に載っている内容を全て教える授業からの転換や、扱う内容のある程度の精選・焦点化などが必要になるだろう。「歴史総合」でも「日本史探究」でも扱う近現代史について授業内容を連携させることなども考えられる。とはいえ、「歴史総合」と「日本史探究」では日本史に関する情報量がまったく違うので、その点も注意しなければならない。

大学入試への影響

共通テストや個別試験における「日本史探究」の扱いはまだあまり公表されていないが、「日本史探究」で強調されている「歴史の転換」「画期」にかかわる出題がこれまで以上に見られる可能性はある。

また、「日本史B」でも重要視されている「資料」が一層大きな意味を持つことになるので、現状のいわゆる史料問題とは異なる、資料を使った新しいタイプの問題が出題されることも予想される。

近年の「日本史B」の共通テストでも、正誤問題や時代整序問題では歴史用語を隠した形で出題されるなど、単純な知識の暗記では答えられない出題形式への変化が見られる。

また、早稲田大学社会学部や上智大学などの個別試験でも新たに論述形式の問題が出題されるなど、新たな動きが見られる。今後の動向に注目したい。

「問い」や「仮説」は探究的な学習を促す仕掛け 「歴史の解釈、説明、論述」に重きを置いた授業を展開

日本史探究 筑波大学附属高等学校



大庭大輝 先生

Point

- ✓ 資料の読み取りはスモールステップで始め、読解力を鍛えていく
- ✓ 「問い」や「仮説」はそれ自体を目的化しないことに注意
- ✓ 「画期」や「地域」に着目し、時代の流れを問い直す

量や種類を工夫して提示しながら 「資料の読み取り」の活動を導入

学習指導要領には深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが述べられているが、「日本史探究」における「歴史的な見方・考え方」とは何か。

筑波大学附属高校の大庭大輝先生は『『地理的な見方・考え方』は、以前の学習指導要領から示されており、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など、1992年の地理教育国際憲章に沿ったものとなっています。一方、『社会的事象の歴史的な見方・考え方』＜図表1＞は今回の学習指導要領で初めて内容が明示されたものであり、まだ教育現場にあまり馴染みのないものだと思います。この整理でいいのかという議論もあると思いますが、地理や公民のそれと差別化を図りつつ、いろいろな要素から物事を見

てみることに重視されていると理解しています」と話す。

また、「日本史探究」では、必修科目の「歴史総合」同様、学習全般において問いを設定し追究する学習が求められている。この学習において重要なのは、問いの設定であるが、問いの追究を促す資料の活用についても言及されている。この点について大庭先生は「内容の構成を見ても、中項目（2）に必ず『歴史資料』という文言が含まれており、資料の扱いは重視されている印象です。学習指導要領解説を見ても、資料に基づいて考察することの重要性が繰り返し説かれています。『何でもアリではない』ことを担保する意図があるのではないのでしょうか。生徒が考察を行う際には、資料に基づいて行うことが大事であり、資料などを根拠として、たどり着ける範囲で議論・考察しましょうということだと捉えています」と語る。

こうした資料の読み取りについて、大庭先生はスモ

図表1 「日本史探究」の目標と「社会的事象の歴史的な見方・考え方」について

◆科目の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

◆「社会的事象の歴史的な見方・考え方」とは

「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付け」て働かせる際の「視点や方法（考え方）」のこと。

◆「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に沿った視点の例

- ①「時期、年代、時代など時系列に関わる視点や方法（考え方）」
- ②「展開、変化、継続など諸事象の推移に関わる視点や方法（考え方）」
- ③「類似、差異、多様性、地域性など諸事象の比較に関わる視点や方法（考え方）」
- ④「背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性など事象相互のつながりに関わる視点や方法（考え方）」
- ⑤「現在とのつながり」

（学習指導要領解説をもとに河合塾が作成）

ルステップで始めることがポイントだと考えている。

「いきなり大量の資料を渡しても生徒は着眼点がわかりません。初めは1つか2つの資料を提示して、資料のどこに注目すべきかや重要な情報がどこにあるかなど資料の読み取り方を伝えています。1回の授業で提示する資料の数を徐々に増やす、絵画や図版など文字資料以外も提示するなど、段階を踏みながら生徒の歴史資料の読解力を育成しています」

歴史の解釈、説明、論述の動機付けとしての「問い」や「仮説」の表現が大切

続いて「日本史探究」の構成を見ると、大項目は大きな時代区分で区切られ、中項目（1）で前の時代からの転換を理解して時代を通観する「問い」を表現し、（2）で時代の特色を示す資料を活用し「仮説」を表現し、（3）で次の時代への展開と画期という歴史の解釈、説明、論述をする構成になっている＜図表2＞。

大庭先生は「（2）が特に目新しい部分です。しかし、問いや仮説を立てることにとらわれすぎると、それが目

的になってしまい、本来の趣旨を見失う可能性があります。生徒に問いや仮説を立てさせる目的は、探究的な学びを促すことです。歴史の流れをなぞっていくだけではなく、なぜそうなる？次はどうなる？と生徒自らが主体的に歴史をたどっていけるようにすることが本来の目的です。仮説や問いは、あくまでそのための仕掛けだと理解しています。むしろ私は（3）の『歴史の解釈、説明、論述』の部分が重要だと思っています」と話す。

歴史の解釈、説明、論述は「日本史B」にも設置されていたが、それぞれ単独の中項目として中世や近世、現代史に示されていた。「日本史探究」では、全てのの中項目（3）に設けられており、これらの活動を繰り返す行うことで、知識や概念のより深い理解、思考力・判断力・表現力の育成が図られている。

大庭先生は『『日本史B』のときは特別に置かれていたものが、『日本史探究』では、（3）に吸収されて日常化したということだと捉えています。普段の授業から変えていかなければいけない、というメッセージだと受け止めています」と語る。

図表2 「日本史B」と「日本史探究」構成と変更点

日本史B		日本史探究	
大項目	中項目	大項目	中項目
(1) 原始・古代の日本と東アジア	ア 歴史と資料 イ 日本文化の黎明と古代国家の形成 ウ 古代国家の推移と社会の変化	A 原始・古代の日本と東アジア	(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 (2) 歴史資料と原始・古代の展望 (3) 古代の国家・社会の展開と画期 → (歴史の解釈、説明、論述)
(2) 中世の日本と東アジア	ア 歴史の解釈 イ 中世国家の形成 ウ 中世社会の展開	B 中世の日本と世界	(1) 中世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と中世の展望 (3) 中世の国家・社会の展開と画期 → (歴史の解釈、説明、論述)
(3) 近世の日本と世界	ア 歴史の説明 イ 近世国家の形成 ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容	C 近世の日本と世界	(1) 近世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近世の展望 (3) 近世の国家・社会の展開と画期 → (歴史の解釈、説明、論述)
(4) 近代日本の形成と世界	ア 明治維新と立憲体制の成立 イ 国際関係の推移と立憲国家の展開 ウ 近代産業の発展と近代文化	D 近現代の地域・日本と世界	(1) 近代への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近代の展望 (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造 (4) 現代の日本の課題の探究
(5) 両世界大戦期の日本と世界	ア 政党政治の発展と大衆社会の形成 イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会 ウ 第二次世界大戦と日本		
(6) 現代の日本と世界	ア 現代日本の政治と国際社会 イ 経済の発展と国民生活の変化 ウ 歴史の論述		

(学習指導要領解説をもとに河合塾が作成)

「地域」を切り口にすることで立ち上がる 時代の画期を相対化して考察する視点

大庭先生は「画期」という言葉にも注目する。「画期」を捉えることが、生徒自身が時代を解釈することにつながると考えるためだ。

日本史は、大きな時代区分で大項目が分けられているが、「その時代区分が絶対的なものではないよという意味を込めて『画期』という言葉が用いられているのではないのでしょうか」と大庭先生はいう。

「画期」を考える切り口の1つとして、近現代を中心に登場する「地域」という言葉に着目したい。「たとえば中世の荘園制について考えてみましょう。中世とは、荘園公領制が展開して私的な土地所有をもとにした権力が生じてきた時代だと一般的には捉えられています。しかし、私の出身地の秋田県には荘園は確認されていません。すると秋田県に中世はなかったのか、という話になります。このように『地域』という視点で見ると、一律に歴史を語れるわけではないことがわかります」

近現代史に関しては、「歴史総合」との重複をどう扱うかも課題だ。大庭先生は「学習指導要領を見ると、『日本史探究』には『地域』という言葉が用いられており、地域という視点で『歴史総合』と差別化するということだと受け止めています。しかし、教科書は地域ごとの情報を盛り込めるわけではないので、地域的な視点を取り入れた授業を展開するとすると、教材の準備など教員の負担が大きく、難しいのが実情だと思います。それでも、どういう文脈で取り上げるのかは工夫していかなければと感じています」と語る。

たとえば、自由民権運動で知られる板垣退助は、小学校から数えると「日本史探究」で扱うのは4回目になる。

大庭先生は、「板垣退助の場合、小学校では人物として取り上げ、中学校や『歴史総合』では、自由民権運動について学ぶ際に触れます。『日本史探究』では、土佐以外の地域の自由民権運動を扱うこともできますし、自由民権運動以外の側面から板垣を扱うこともできるでしょう。いずれにしても、これまでと違うアプローチを考える必要があるのではないのでしょうか」と考えている。

前学習指導要領の内容を 実施できているかの振り返りが第一歩

「日本史探究」では標準単位数3単位になり、「日本史B」と比べ1単位減っている。この点について大庭先生は、「実際には学校設定科目を含め増単で対応する高校も多いでしょう。しかし、標準単位数が3単位になったのは、従来通り教科書をなぞって教える授業から、内容を焦点化して教える授業に変えていくようにというメッセージではないのでしょうか」と指摘する。

筑波大学附属高校では、「歴史総合」は1年次で3単位、「日本史探究」は3年次で4単位設置している。4単位配当しているものの3年次に置いたため、受験を考えると2学期までの実質3単位分で授業を終わらせる必要がある。これまでの「日本史B」でも同様の単位数で対応してきたという。

「細かい歴史用語は授業内では取り上げず、生徒から求められれば夏休み中の補講や課題プリントを渡すなどして対応し、授業は時代を大きくつかむような話題に絞って行っています」という。

最後に、これから「日本史探究」の指導をするにあたってのアドバイスをうかがうと、「先ほども述べたように、まずはこれまでに求められていたことが実践できているかを振り返る必要があるのではないのでしょうか。これまでとすれば『飾り』になっていた現行課程の歴史の解釈、説明、論述についての指導要領解説や各教科書記述にも、授業へのヒントがあります。普段から、解釈したり論述したり説明するような授業にしていかなければいけない。自戒も込めて、今の授業の在り方を見直すことから始めるのが『日本史探究』の授業への第一歩だと思います」と締めくくってくれた。

筑波大学附属高等学校

◇所在地：東京都文京区大塚1-9-1

◇創立：1888(明治21)年

◇卒業生数：2022年3月卒業生240名

◇大学進学者の内訳：国公立大84名／私立大74名

世界史探究

監修 河合塾
地歴・公民科講師
坂本新一



改訂のポイント

「世界史探究」は、「歴史総合」の学習を踏まえ、地球世界の課題とその展望を探究する力を養うことを目標としている。

「世界史探究」は下記2点を主な特徴としている。

- ・生徒の興味・関心に基づく「問い」を起点に学習を展開
- ・歴史の大きな枠組みと展開にかかわる事象の意味や意義、特色などの考察を重視

科目の構成は<表>の通り。5つの大項目のうち「A 世界史へのまなざし」を科目の導入として、B～Dでは生徒の問いを起点として世界の歴史の大きな枠組みと展開を捉え、「E 地球世界の課題」では、科目のまとめとして地球規模の課題について生徒が主題を設定し、探究する構成となっている。

表 「世界史探究」の構成

大項目	中項目
A 世界史へのまなざし	(1) 地球環境から見る人類の歴史 (2) 日常生活から見る世界の歴史
B 諸地域の歴史的 特質の形成	(1) 諸地域の歴史的特質への問い (2) 古代文明の歴史的特質 (3) 諸地域の歴史的特質
C 諸地域の 交流・再編	(1) 諸地域の交流・再編への問い (2) 結び付くユーラシアと諸地域 (3) アジア諸地域とヨーロッパの再編
D 諸地域の 結合・変容	(1) 諸地域の結合・変容への問い (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 (4) 第二次世界大戦と諸地域の変容
E 地球世界の 課題	(1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会 (4) 地球世界の課題の探究

(学習指導要領解説をもとに河合塾が作成)

高校教育への影響

「世界史B」と比較すると標準単位数が4→3単位へと1単位減っている。扱う範囲はこれまで通りだが、生徒が問いを立てる探究活動の充実も求められているため、標準単位数で編成した場合、時間が足りなくなることが課題だろう。学習指導要領でも詳細で専門的なことを教えるのではなく、世界史の大きな枠組みと展開の理解を目標としていることが触れられているため、内容の精選・焦点化が必要になる。

また、「歴史総合」で主に扱う近現代史は、「世界史探究」でも改めて触れることになる。「歴史総合」では各時代の概要を教え、「世界史探究」ではテーマ史を深めたアプローチ、のように教え方のすみわけを検討する必要もあるだろう。

生徒が立てた「問い」を起点とした授業を行うことを前提に、学校や生徒の状況に合わせ、教員が問いを提示したり、必要な資料を用意したりするなど、実態に応じた工夫ができるとよいだろう。

大学入試への影響

2025年度共通テストでは、「歴史総合、世界史探究」として出題される。

2021年3月に公表された共通テスト「歴史総合」のサンプル問題を見ると、世界の歴史と日本の歴史の相互関連性を強く意識した出題や、図版・グラフ・史料などの諸資料が多く用いられるなど、学習指導要領の趣旨に沿った出題がなされている。

「世界史探究」の部分は未公表である。しかし、近年の共通テストにおいても、すでに現代社会の諸問題を考えさせるような出題や、討論を念頭においたと思われる会話文を利用した出題が見られており、いっそうこの傾向が強まると推測される。今後の動向に注目したい。

内容の焦点化・精選を行い、資料も厳選した上で「問い」を起点とした授業を展開

世界史探究 東京都立青山高等学校

Point

- ✓「問い」は、最初は教師が示し、生徒の「問い」を立てる力を徐々に育成
- ✓近現代は切り口を変えて扱うことで、「歴史総合」とすみわけ
- ✓大学入試も横のつながり、事象の意味や意義を問う出題が見られるように



角田展子 先生

歴史的な視点による「問い」は最終的に生徒自身が立てられるように

新設科目の「世界史探究」は、38ページで挙げたような特徴がある。東京都立青山高校の角田展子先生は、中でも生徒が立てた問いを起点とした授業を実践することがポイントになるという。

しかし、生徒が「問い」を設定することは難しい。授業を展開していく上で適切な「問い」を、毎回生徒が表現できるとは限らない。

そこで角田先生は「最初は教員が問いを立てることで、問いの立て方や着眼点を示し、段階を踏み最終的に生徒が問いを立てられるようになればよい」とアドバイスする。また、教員が集めた資料を生徒に提示し、「ここからどんな問いが立てられるか考えてみよう」と生徒と一緒に取り組むのも一案であるという。角田先生は「その問いから歴史的な考察が広がらなければ、別の問いを考えてみる、というように、試行錯誤しながら改善していけばよいと思います」と話す。

また、これまで以上に資料の読み取りなどの学習活動が欠かせない。新課程の教科書には、これまでと比べて多くの資料が掲載されている。まずはこちらを活用することになるだろう。そのほか、多くの先生方がこれまで活用してきた岩波書店の『世界史史料』^(注1) などから、

授業の展開に合わせて資料を抜粋して使うことも考えられる。また、新聞なども含めて、アンテナを広く持って資料を収集すると良いと角田先生は語る。

多面的な考察に役立つ教科書以外の資料として、角田先生が例示するのが、東京外国語大学主催の世界史セミナーで紹介された、20世紀初頭に刊行された風刺画入りの週刊雑誌『モッラー・ナスレディン』である^(注2)。この週刊雑誌はカフカス地方のムスリムを対象にアゼルバイジャン語で書かれた<資料1>。

資料1 週刊雑誌「モッラー・ナスレディン」創刊号表紙



(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所HP「モッラー・ナスレディン紙」 デジタルアーカイブより。URLは下部に掲載)

(注1)『世界史史料』全12巻(歴史学研究会編 岩波書店刊 2006～2013年)

(注2)この週刊雑誌はロシア帝国カフカス地方の都市ティフリス(現ジョージア共和国トビリシ)で1906年に刊行され、ロシア革命などの混乱で休刊時期もあったが発行都市を変えつつ1931年まで存続した。東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 オンラインリソースポータルで閲覧することが可能である。<https://online-resources.aa-ken.jp/resources/detail/IOR000095>

「風刺画というと、授業や定期テストでは『パンチ』など欧米のものをを用いることが多いですが、この資料の日露戦争を扱った風刺画は、欧米と観点が異なり、多角的な考察をするには良い素材でしょう」と話す。

生徒自身が資料を収集する活動を取り入れることも考えられるが、インターネット等には、偏った歴史認識に基づいた資料や、根拠に欠ける資料なども散見される。このため角田先生は、「授業で扱う資料は教員が目を通して選定したほうが良い」と考えている。

資料の選定や授業方法の工夫により 多面的な考察を促進

角田先生は、数年前から「世界史B」でも生徒の「問い」を起点とした授業の実践に取り組んでいる。たとえば、フランス革命の通史を行ったあと、「恐怖政治は革命の成果達成のためには必要だったか？（ロベスピエールは有罪か？）」という「問い」を設定し、複数の資料をもとに生徒がグループで考察して発表する、というものだ。

この授業は長野県高校教員の小川幸司先生の『世界史との対話～70時間の歴史批評』^{〔注3〕}をもとに、角田先生が資料を追加するなどアレンジして実施している。

「当初は生徒に自由に考察させていましたが、似たような意見にばかりなってしまう。そこで今年は、ロベスピエールは有罪であるというグループと無罪であるというグループに分けて、それぞれの立場で考察・発表し、それをもとに討論しました<資料2>」

無罪のグループに振り分けられた生徒は、もう一度その視点で資料を見直し、多角的・多面的な議論につながったという。ただし、こうした授業は毎時間展開することは難しく、「各学期に1回程度できればいいでしょう」と角田先生はいう。

一方で、資料を読み取る活動は日常的に行っており、風刺画の意味についてグループで考えさせたり、風刺画にタイトルをつけさせる活動などを短時間でも取り入れるようにしている。

入試も資料を読み取り

歴史を横のつながりで捉える問題へ

「世界史探究」への移行に伴い、内容の構成にも変化があった。大きな時代のまとまりごとに地域別に通史を学ぶ構成だった「世界史B」と比較すると、「世界史探究」では、歴史的特質の形成、交流・再編、結合・変容など、横のつながりを重視した構成となっている。

角田先生は、「イスラーム史の場合、これまでイスラーム世界の成立から13世紀まで一貫して学んでいたのが、8世紀に成立したアッバース朝の途中で一旦切り、中世ヨーロッパと比較します。教員は、従来の教え方とは流れが変わるため、違和感があるかもしれません。どのように工夫しようかと私も悩んでいるところです」という。

また、今回の学習指導要領改訂に伴い、「世界史探究」の標準単位数は「世界史B」に比べて1単位減単されている。この点について角田先生は「実際は増単で対応する高校もあると思いますが、いずれにせよ内容の精選・焦点化は必要です。これからはスマートフォンで調べればわかるような細かい知識を教える授業は求められていません。一つ一つの歴史用語について解説するというより、古代文明の共通点と相違点は何か、世界の一体化とは何かといった概念に力を割いた授業にしていくべきだと理解しています」と語ってくれた。

また、角田先生によると、大学入試も変わってきたという。「これまで教員は、大学入試に対応しなければならぬということ、授業を変えない言い訳にしてきたところがありますが、入試も変わってきています」

私立大学でも、学習指導要領の改訂を念頭に置いたと思われる出題の変化が見られるという。たとえば、2022年度の立教大学の入試^{〔注4〕}では、「エムス電報事件」が出題されたが、事件の内容自体ではなく、電報そのものの一次資料を用いて改ざんの意図に焦点を当て説明させる形で出題された。

〔注3〕『世界史との対話～70時間の歴史批評』（小川幸司著 地歴社刊 2011年）（小川幸司先生のインタビュー記事は、Guideline2018年7・8月号参照）

〔注4〕2022年度立教大学一般入試（2月8日）大問I

資料2 授業で使ったワークシート

世界史SPECIAL 恐怖政治は革命の成果達成のためには必要だったか？ ロベスピエールは有罪か？ チーム名 () 議事進行係 () 発表者 () () 他グループへの質問者 () 黒板への記入者 () はじめに 1 ジャコバン派（ロベスピエール）恐怖政治についての率直なイメージをひとことどうぞ 確認！ 2 フランス革命の成果とは？ これまで学習したことをもとにグループで話し合おう 本日のテーマ1 3 ジャコバン派の恐怖政治の実態は？ 資料①②③から読み解こう 4 なぜ、ジャコバン派は恐怖政治を行ったのだろうか？ 資料④⑤⑥⑦を参考に考えてみよう 組 番 氏名		本日のメインテーマ 5 恐怖政治は革命の成果達成のためには必要だったか？（ロベスピエールは有罪か？） クラスを二つに分けます 必要だった（無罪） () 班 必要ではなかった（有罪） () 班 自分のチーム＝有罪／無罪 それぞれの立場で、なぜ、その結論になるか意見をまとめる。なるべく資料などをとに！ 異なる立場への質問 応答 本日のプラスALPHA 6 歴史上、ロベスピエールと同じような役割を果たした人物(or ジャコバン派独裁と同じような組織)を考えてみよう さいごに 7 (1) 本日の授業への取り組み度（自己評価） A : max B C D : min (2) 授業をふりかえっての意見、感想、さらなる疑問
--	--	---

「歴史総合」と重なる近現代史は
経済的視点で考えるのが1つの鍵

「世界史探究」の授業を行う上でもうひとつ論点となるのが、「歴史総合」と重複して学習する近現代史の扱いだ。角田先生は『歴史総合』の教科書は想定していたより通史として学ぶ構成でした。一方、『世界史探究』は、特に戦後史は、政治史、経済史、文化史といったテーマごとに構成されている印象です」と、両者では切り口が異なると話す。

「これまで戦後の国際関係は、東西冷戦史という視点で語ってきましたが、『世界史探究』では、その背景にある経済情勢から冷戦を考えさせる授業ができるでしょう。また、『歴史総合』を経て『世界史探究』で古代から学習したあと、同じ近現代の問いの質がどのくらい向上したかを比較すれば、歴史の知識や見方・考え方の深まりを確認できると思います」と話す。

最後に「世界史探究」に臨むにあたっての心構えをうかがうと、『歴史総合』に比べれば、『世界史探究』では『世界史B』からさほど大きな変化はないため、過剰に心配する必要はないでしょう。これから始まる新しい科目でもあるので、あまり失敗を恐れず、いろいろな先生の授業実践例を参考にしながら、生徒と一緒に授業を作っていけるといいのではないのでしょうか」と締めくくってくれた。

東京都立青山高等学校

◇所在地：東京都渋谷区神宮前2-1-8

◇創立：1940（昭和15）年

◇卒業生数：2022年3月卒業生281名

◇進路の内訳：国公立大75名／私立大134名／その他1名

現代文

監修

河合塾
国語科講師
梅澤眞由起



改訂のポイント

国語では内容の構成や科目の再編が行われ、「国語総合」が必修科目「現代の国語」と「言語文化」に分けられ、選択科目として「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」が各4単位で設置された。

高校教育への影響

「論理国語」「文学国語」をどう設置するか悩まれた高校が多いのではないだろうか。Guideline編集部が2021年に行った2022年度入学者向けのカリキュラム調査（2021年8月13日時点で学校ホームページに教育課程を掲載していた高校を対象に集計）＜図＞を見ると、理系では「論理国語」のみ設置した高校が全体の約6割を占める。文系では「論理国語」「文学国語」を両方設置している高校が多いが、どちらかを減単して設置しているケースも見られる。

共通テストの出題が現行のまま維持されるのであれば、小説などの文学的な文章を扱う時間数や機会をどう確保するかが課題となる高校が多いだろう。

また、今回の学習指導要領改訂で読み取り中心の授業からの脱却がめざされ、授業時数を見ても「書くこと」

の比重が大きくなっている。

一方、共通テストをはじめとする大学入試の出題は読み取りが中心であり、「読むこと」も丁寧に指導を行う必要がある。「読むこと」と「書くこと」とのバランスやつながりを考えて、授業を行うことになると思われる。

さらに「論理国語」には、報告書、企画書、法令文といった「実用的な文章」の指導も含まれている。

大学進学者の多い高校では、時間の制約もある中で、これらの扱いをどうするか悩みどころだろう。

大学入試への影響

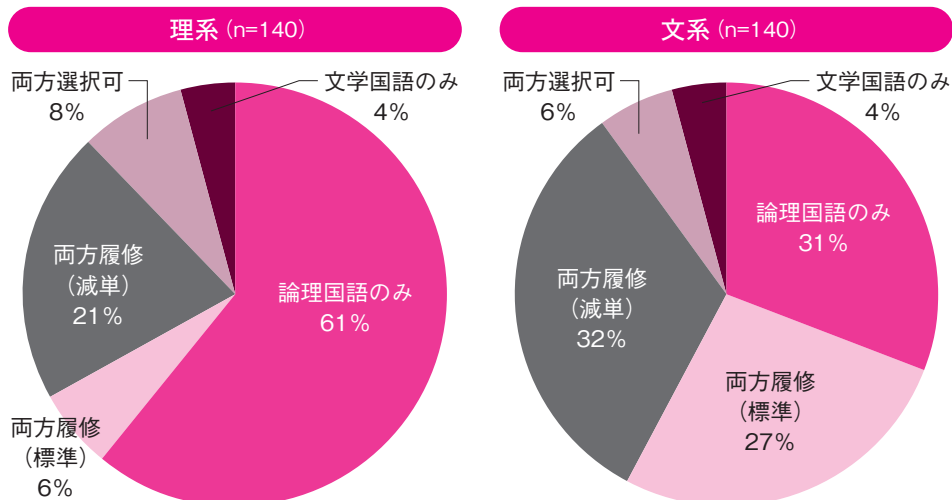
2025年度以降の共通テストの国語の出題範囲は、必修科目である「現代の国語」および「言語文化」であり、「論理国語」「文学国語」「国語表現」は含まれていない。

2022年度共通テストでは、異なる筆者の二つの文章を取り上げたり、辞書の記述や俳句と関連付けて考える問題が出題されるなど、学習指導要領に沿った新傾向の出題が見られた。今後は、実用文やグラフなどの図表も含め、複数の文章や資料を組み合わせた照らし合わせなど、多様な出題がされる可能性もある。

個別試験での国語の扱いは不確定だが、早稲田大学の複数の学部が、共通テストの点数を国語の点数とみなす

という形態をすでに導入している。また、学習指導要領改訂に直接関連はしないが、入試改革の一環として、早稲田大学や上智大学、青山学院大学などで、各学科が文章読解とともに専門的知識を問う独自試験を行っている。こうした試験は志望する生徒に個別に対応するのが難しいが、国語の教員が社会科などの教員と連携して指導に当たれば効果が期待できるだろう。

図 現代文選択科目設置状況



「言葉の力」と「論理の力」は社会生活に必要な力 生徒が楽しく取り組める活動を通じて力をつける

論理国語・文学国語

神奈川県立多摩高等学校

Point

- ✓ 新学習指導要領では、何のために国語を学ぶのがより明確になった
- ✓ 「書くこと」は毎回、異なる評価ポイントを決めて1年間を通じて指導する
- ✓ 読み比べや融合文章など共通テストの出題傾向は言語活動に親和性も



石原徳子 先生

国語で育成するのは 「言葉の力」と「論理の力」

多くの高校では、次年度より「論理国語」や「文学国語」など選択科目の授業が始まる。これまでの「現代文B」等と比較し、育成する資質・能力や教科書で扱われる文章などに違いはあるのだろうか。

神奈川県立多摩高校に勤務する石原徳子先生は、学習指導要領で示された育成する資質・能力について、何のために国語を学ぶのが全面に出されたという印象を持っている。石原先生は「社会がスムーズに良い方向に動いていくためにも、自分の状況を相手に伝えたり、自分の気持ちを的確に表現する力は必要だと思います」と話し、「大学に合格したら国語の勉強は終わりということ

ではなく、生徒たちが高校卒業後、大学で論文を書く際や、さらにその先も豊かな社会生活を送ることができるような言葉の力、論理の力をつけることが目標だと理解しています」と語る。

教科書に掲載されている文章については、基本的には従来と大きくは変わらないとの印象を持っている。ただし『『現代の国語』では、『話すこと、聞くこと』、『論理国語』『文学国語』では『書くこと』の扱いがこれまでよりも重視されています」

と指摘する<図表1>。

さらに、「これからは、文章のタイトルの付け方が適切なのか、文中で置かれている前提は一般的なことかなど、与えられた文章に対して批判的な視点も持ちながら読み解く観点も必要になるでしょう」と「読むこと」の変化にも注目している。

必修科目とのつながりや 「実用的な文章」の指導

必修科目「現代の国語」「言語文化」とのつながりについて、石原先生は『『論理国語』は『現代の国語』に比べ文章の抽象度が上がり、学術的な内容なども入っています」と違いを指摘する。「文学国語」については、『『書くこと』には創作が含まれますね。生徒は文章を書

図表1 「内容の取り扱い」に示された各領域における授業時数

	思考力、判断力、表現力等		
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
現代の国語	20～30単位時間程度	30～40単位時間程度	10～20単位時間程度
言語文化		5～10単位時間程度	【古典】 40～45単位時間程度
			【近代以降の文章】 20単位時間程度
論理国語		50～60単位時間程度	80～90単位時間程度
文学国語		30～40単位時間程度	100～110単位時間程度
国語表現	40～50単位時間程度	90～100単位時間程度	
古典探究			(示されていない)

(学習指導要領解説をもとに河合塾が作成)

く際に言葉を選んだり、工夫したりします。その経験が読むときの着眼点となり、今度は読みが深まります」と話す。

法令文や企画書などの「実用的な文章」の指導については、『総合的な探究の時間』などもそうですが、国語の授業以外の機会をうまく活用できると良いと思います」という。「進路関係の行事で訪問先の企業へお礼状を書いたり、その企業について調べたりするなどの活動も取り入れやすいと思います。実用的な文章の素材は案外、身近にあるのではないのでしょうか」と話す。併せて、資料の扱いについても「膨大にある資料の中から、適切な資料をどう探し、選び取るのかということや、資料の見せ方には作成者の意図があるということを教えるのも大事な指導だと思います」と話す。

「随想文」はジャンルとして幅が広いため、「文学国語」でなくとも授業で扱うことは可能だと見ている。たとえば、比較的易しいの内容の科学エッセイを用いて、「このエッセイを論文にするためには何が必要か、どのようなデータがあれば良いか、言葉遣いは適切か、などの視点で書き直してみても面白いと思います。『論理国語』の授業としても成立するのではないのでしょうか」と指導のアイディアを示す。

「書くこと」の指導は

1年間を通じて完成させる

学習指導要領で重視される「書くこと」だが、「書くこと」の指導と言語活動としての「書くこと」は異なる<図表2>。「たとえば、古典の授業で登場人物になりきって日記を書くという言語活動をする場合、書くために深く読み込むことを目標とするなら、言語活動としては書くことですが、これは『読むこと』を伸ばすための指導です」と話す。

一方、「書くこと」の授業では、生徒に書き方を教え、その指導事項を評価するという。評価する際は「文章全体や内容に目が向いてしまいがちですが、全部を一気に評価するのではなく、『今回は語彙の豊かさ』『次回は文章構成』などとポイントを絞って、そこだけの評価します。1年間を通じて指導が完成すれば良いのではないのでしょうか」と話す。

文章を書く授業は生徒・教員いずれも負荷が大きいが、

ポイントを絞って評価を行い、評価ポイント以外は不問とすれば、負荷は軽減され、指導の機会を増やしやすい。

また、コロナ禍以降、ICTも積極的に活用している。「文章の構成を大きく変える場合でも、段落全体をコピーアンドペーストするだけでするので、推敲も以前より容易になり、生徒の心理的負担が減っている気がします。また、授業中リアルタイムで全員の意見共有ができるのも魅力です」という。

紙で提出された答案に目を通し、授業で使えるものを選別し、切り貼りし授業プリントを作成していた従来のやり方に比べ、授業準備の負担が軽減できるほか、課題の提出状況の確認や答案の管理が容易になるなど、メリットは多々ある。

一方、書くことがどうしても苦手だという生徒の指導には課題も残る。生徒が「書けない」要因はさまざまあるが、石原先生はグループワークが効果的ではないかと提案する。「話題や結論、文章構成や文中で示す根拠の資料などを決めるまではグループで話し合い、そこから先は各自で書いていくという方法です。グループワークを通じて、他の人のアイディアを取り入れられます」と話す。それでも書けない生徒には、冒頭だけを示すなど指導の工夫をしている。

生徒が楽しくなる活動を

通じて国語力を伸ばす

多摩高校では、2年次で「文学国語」（3単位）を、3年次で「論理国語」（2または4単位）を履修する。石原先生は従来から言語活動を重視した授業を行ってきたが、「文学国語」では探究的な活動もやってみたいという。たとえば、文学作品の中で“風”はどういう時に吹くのか、と“風”に注目してさまざまな作品を読み比べるなどの活動だ。「風はどういう時に吹いているのか、情報としては重要ではなくても、この“風”には意味があるのではないかなど、生徒はそれぞれの解釈の後に自分の考えを形成していきます」と話す。こうした活動は、“風”のほか“月”や“恋”などを用いても可能だという。

これまでには月をテーマに、伊勢物語「月やあらぬ」、大和物語「姥捨」や「山月記」を一定期間に読む授業を行った経験があるそうだが、いずれも生徒たちは楽しく取り組んでいたという。

図表2 「書くこと」の指導事項と言語活動例

	学習過程	論理国語	文学国語
指導事項	題材の設定 情報の収集 内容の検討	◆実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などのさまざまな観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。 ◆情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。	◆文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。
	構成の検討	◆立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。	◆読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。
	考えの形成 記述	◆多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。 ◆個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。	◆文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。
	推敲 共有	◆文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。	◆文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。
言語活動例		◆特定の資料について、さまざまな観点から概要などをまとめる活動。 ◆設定した題材について、分析した内容を報告文などにまとめたり、仮説を立てて考察した内容を意見文などにまとめたりする活動。 ◆社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考にして、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う活動。 ◆設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、さまざまな観点から自分の意見や考えを論述する活動。	◆自由に発想したり評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動。 ◆登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりする活動。 ◆古典を題材として小説を書くなど、翻案作品を創作する活動。 ◆グループで同じ題材を書き継いで一つの作品をつくるなど、共同で作品制作に取り組む活動。

(学習指導要領解説をもとに河合塾が作成)

こうした活動は、一見すると受験勉強とは方向性が異なるようにも見えるが、共通テストでは、国語に限らず、複数の資料を読み比べて考察するなど、深い思考力や読解力が求められる出題に変わってきている。生徒が楽しく取り組んだ結果、読解力や思考力が向上することは、入試にもつながり、さらにその先の大学生活、社会生活にも生きてくるのではないかと考えている。

限られた授業時間の中で言語活動を行うための時間が十分に取れないという課題もあるが、石原先生は「国語では授業の中で全てを完結する必要はなく、考え方の核となることを授業で教え、後は生徒たちが生活の中や自分で学習を進める中で、繰り返し練習して必要な型を身につけていくのだと思います」と話す。授業時間数に限

りがあるがゆえに、授業をどうデザインし、生徒にどのような力をつけていくか、石原先生は「生徒も教員も面白いと思える授業をして、試験でも点数が取れるのが理想です」と前向きに語ってくれた。

神奈川県立多摩高等学校

◇所在地：神奈川県川崎市多摩区宿河原5-14-1

◇創立：1956(昭和31)年

◇卒業生数：2022年3月卒業生272名

◇卒業生の進路：国公立大60名／私立大184名／海外大学1名／専門学校2名

古典探究

監修

河合塾
国語科講師
坂下由香里



改訂のポイント

「古典探究」は、標準単位数4単位の選択科目である。必履修科目として設置された「言語文化」（標準単位数2単位）の学習を踏まえつつ、古典への興味を高め関心を広げることに重きが置かれている。また、単なる教養的知識ではなく、古典が現代を生きる生徒の中に生きて働くものとなることを求めている。

高校教育への影響

古典文法の習得および文法や語彙の知識に基づく読解という古典学習の根幹についてはこれまでと同様である。ただし、＜表＞に示した通り、文章の読解にとどまらず、古典の学習過程を経て「自身の考え方を広げたり、深めたりする」ことが目標として掲げられている。そのためには、調べ活動・話し合い・発表・報告・創作などといった言語活動を取り入れることが必要になるが、限られた授業時間の中でどれだけ実施できるかが課題である。教材の精選を行う、言語活動に軽重をつけるなど、工夫ができるとよいだろう。

また、これらの言語活動を行うにあたっては、語彙・文法などの基本的な知識が一定水準あり、ある程度自力で文章を読めることが前提となるが、必履修科目の「言語文化」だけで文法事項等の習得が十分できるかという点も懸念事項だろう。

大学入試への影響

2025年度以降に実施される共通テストの出題範囲は、必履修科目の「現代の国語」と「言語文化」になると公表された。しかし、共通テストの難度が現行課程と同程度となった場合は、「言語文化」の学習のみでは不十分であり、「古典探究」の履修が必要となるだろう。

また、共通テストの問題作成方針に「異なる種類や分野の文章などを組み合わせた、複数の題材による問題を含めて検討する」と示されていることから、複数の文章を組み合わせた出題がされる可能性が考えられる。

国公立大二次試験・私立大入試での扱いは未定であるが、現行課程では「古典B」を出題範囲としている大学が多いことから考えて、「古典探究」が出題範囲に加えられる可能性が高い。複数の文章を組み合わせた出題はこれまでも時折見られており、この傾向は今後も継続すると予想される。読み比べの教材としては、異なる説話集に採録されている類話や、同じ出来事を描いている歴史物語・軍記物語と日記など、関連性のある文章を取り上げると良いだろう。

古典の受験対策としては、これまでと同様、古文や漢文の原文を正しく読解する力の育成が原則だが、日ごろの学習においても、自分の考えたことをわかりやすくまとめる練習を積んでおくのが望ましい。

表 「古典探究」における「読むこと」の指導事項

学習過程	指導事項
構造と内容の把握	◆文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。 ◆文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。
↓ 精査・解釈	◆必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。 ◆作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
↓ 考えの形成、共有	◆古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。 ◆古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。 ◆関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。 ◆古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。

（学習指導要領解説をもとに河合塾が作成）

読む力の育成と言語活動をどのように両立させるか 言語活動を通じて培う古典常識は受験にも生かせる

古典探究

京都市立紫野高等学校

Point

- ✓「古典探究」は「古典B」よりも言語活動が大幅に増える
- ✓古典を読むための時間と言語活動のための時間をどう配分するかが課題
- ✓常識や価値観が異なる古人とのコミュニケーションで古典常識を身につける



中島涼太 先生

教材は変わらずとも学習方法は変わる

古典学習には文化を次世代に引き継ぐ役割も

「古典探究」は、これまでの古典とどのような違いがあるのだろうか。京都市立紫野高校の中島涼太先生は、言語活動の明示と古典を学ぶ目的、現代の日本社会とのつながりの明示が従来と異なるポイントだと捉えている。「学習指導要領を見るとこれまでに比べて言語活動の具体的な明示が圧倒的に増えています。そして、なぜ古典を勉強するのかということに加え、現代社会や現代の日本語との関係についての記載が多く見られます」と話し、こうしたポイントを踏まえ、来年度の指導を検討中とのことだ。

ただ、教科書の選定を進める中での印象として、知識・技能、思考力・判断力・表現力などが明確に区分けされたことによる違いはあるが、扱う教材そのものが抜本的に変わったとは感じていないようだ。しかし、言語活動についての具体例の記載が増えていることから、「学習方法、授業方法は新しいものになっていくと思います」と話し、これまでの古典の授業とは学び方や教え方に違いが出てくると考えている。

高校生が古典を学ぶことの必要性について中島先生は次のように考えている。ひとつは生徒の日本語の力を鍛え上げるためである。現代語と古語は異なり、現在では使わない語彙や文法もあるが、「普段自分たちが使わない古語を使うことで言語力が鍛えられ、現代文の力が鍛えられるのではないのでしょうか」と話す。現代語をより豊かに上手く使うために、古典学習が必要なのではない

かという考え方である。

さらには、大学での学びを考えた場合、古典を学ぶことで過去の文献や歴史的文献へのアクセスが可能になる点を挙げる。「古文書から昔の天気や気候、天体など天文学に必要な情報を得ることができます。また、大昔の地震、台風など災害の記録を古文書から読み解くためには古語や古典文法が必要です。文系理系を問わず、大学で学問をする上で古典の力はある程度必要になると思います」と国文学以外の分野に進んだ場合でも古典学習が生きて考えている。これら2つの観点は高校生にとってのメリットだが、言語文化、古典の文化を未来に継承するという社会的な意義も古典学習にはあるという。「誰かが言語文化を引き継いでいかななくてはなりません。生徒が古典に関心を持つかどうか、まずは古典に触れてみないことには気づきません。そのためにはカリキュラム化して次世代に引き継いでいく必要があると思います」と日本社会への貢献についても話す。

「言語文化」で言語活動のための基礎力をつける 言語活動で読む力が深められれば受験にも役立つ

現在、紫野高校は1年生の「言語文化」を3単位で設置している（標準単位数2単位）。ただ、それでも時間数が十分という訳ではない。「旧来の『国語総合』は、大まかに言えば評論、小説、古文、漢文で区切られていました。このうち「言語文化」では小説、古文、漢文と4分の3をまかなうことになります。そのため授業コマ数を考えると少々苦しいところはあります」と3単位でも余裕が無いのが実情のようだ。本来であれば、古文・

漢文と小説を内包する言語文化という概念を生徒に身につけさせたいところではあるが、「現在、授業では古典文法の基礎と漢文句法の基礎に取り組んでいるところで、小説に関しては、まだ十分な扱いができるまでに至っていません」と今のところは古典分野の授業が主になっているそうだ。

もう一方の必修科目「現代の国語」では言語活動を活発に取り入れた授業が行われている。そのこともあり、来年度の「古典探究」を見据え、「残りの授業を通じて、言語活動ができるまでの力を生徒たちに身につけさせたいと思っています」と話す。中島先生も指摘するが、ここが「古典探究」における言語活動の難しいところだ。古典を題材に話し合ったり、調べたりといった活動のためには、最低限の古典の基本をわかっていなければ活動そのものが成立しない。「言語活動を活発に取り入れるためにこそ知識が必要になります。今はその素地をいかに作るかに注力しています」と語る。

ところで、学習指導要領上で明示されている言語活動とはどのようなものがあるのだろうか。＜図表1＞にあるように、古典を読んで疑問や興味を持って調べたことを発表したり、議論したりする探究的な活動もあれば、俳句を創作する活動なども言語活動例として挙げられている。また、名言や名句を読んで、その価値についてエッセイにまとめる活動もある。「これまで『国語表現』や『現代文』で活発に行われていたエッセイを書く、俳句を作る活動なども『古典探究』の言語活動の例として挙げられています。古典でも生徒によるプレゼンテーシ

ョンなどを含めた活発な活動が求められているという印象です」と言語活動を前向きに受け止めながらも「取り組みをどこまで行うのかを考えると悩ましいところです」と高校現場の課題を語る。それは受験との兼ね合いである。

従来の「古典B」の授業は、多くの高校では受験を意識して、読む活動が大半を占めていた。そのため「古典探究」では言語活動とのバランスが課題となる。「共通テストは、単に古典が読めれば解ける問題ではなく、比較して読んだりする比べ読みの力や一歩踏み出して考えるような思考力を問う良問が増えていると思います。ただ、やはり読む力が求められていることに変わりはありません」と話す。「古典探究」の授業では発表、議論など話したり書いたりする時間が増えることになるため、「以前のような読む活動の時間をどう確保するか、教師の悩みどころです」と受験への対応との両立に今から頭を悩ませている。それでも「話すことで読みが深まったり、エッセイを書くことで読みが深まったりするような活動ができるかがポイントになります」と前向きだ。

竹取物語から考える現代のポップカルチャー 「未来人」の目線で昔の人の悩み相談に応える

「古典探究」で行う活動案として、中島先生は2つの案を紹介してくれた＜図表2＞。

探究案1は、「竹取物語」を通読した後、与えられた資料（古事記、万葉集等）から元となった記述を探し、次に「竹取物語」が元となっている近現代の作品を調べて発表し、過去からのつながりを系図にまとめるという活動だ。「近現代の作品は、アニメ、ゲームでも良いですし、映画、絵画、小説、漫画など何でも良く、生徒の興味・関心に基づいて自由に探究させます」と生徒にも取り組みやすい内容だ。生徒は平安時代の作品が、場合によっては現代のポップカルチャーにまでつながっていることをイメージできる。「活動①は、細かな文法指導はせず、大意を取るような読み方であらすじを把握するぐらいが良いと思います。長文を通読して、大きな流れを掴むことは受験勉強

図表1 学習指導要領上で明示されている言語活動

古典探究の言語活動例

ア・イ 読んで調べて／読み比べて、発表・議論・論述

ウ・エ 創作・朗読

オ 関連資料を調べて発表・報告

カ 古語と現代語を比較して考察

キ 名句・名言が題材のエッセイ

特にこの二つは
学習指導要領解説で
「探究」の言及あり

(中島先生提供)

図表2 中島先生による「古典探究」の探究活動案

活動	探究案1—今に繋がる古典文学	探究案2—過去に繋がる私の悩み
①	平安時代の伝記物語「竹取物語」を通読する	自分の興味・関心や問題意義に応じて、テーマを選択する
②	与えられた資料から「竹取物語」の元ネタを探し出す	教員が事前にテーマ別に選定しておいた作品群をつまみ読み
③	もう一つの竹取物語（「今昔物語集」巻三—第三話）を読む	昔の人がどういう社会情勢で何に悩んでいたかを整理する
④	「竹取物語」が元ネタのものを自分で探して概要を発表する	「未来人」の目線で筆者や登場人物の「悩み相談」に応える
⑤	「竹取の元ネタ」から「竹取が元ネタ」までを系図にまとめ、社会における古典の意義を考える	逆に、自分の悩みが昔の人の目にはどう映るのかを考える

（中島先生提供の資料をもとに河合塾が作成）

強にもつながり、国語力をつけることにもつながります」と話す。活動②はグループ学習とし、活動③の今昔物語集には授業2コマを当てるがそれ以外は全て1コマを想定、活動④も班分けしてグループ学習、活動⑤の系図作りまでで合計6コマによる活動が想定されている。

この活動案では、古文を読んでいない時間は活動④と活動⑤のみで、それ以外は古文を読解している。「純粋に古文を読む時間は減りますが、それでも竹取物語への理解が深まったり、読みが深まったり、注目するポイントがわかったらそれで良いと思っています。受験を意識すると、いかに読む活動を外さずに、それ以外の活動を盛り込んでいけるかが重要になります」と話す。ただ、「生徒に通読できる力があってこそそのプランですので、高校2年生には少し難しいかもしれません」と生徒の力が課題にもなる。

探究案2は、活動①でまず生徒は自分の関心などに応じてテーマを選ぶ。テーマは恋愛、性差、家庭、社交、仕事など身の回りの問題でも良い。次に活動②では教員が事前にテーマ別に選定した作品群をつまみ読みする。この活動②が教員に最も負荷がかかるところだ。活動③では、昔の人がどういう社会情勢に悩んでいたのかを整理する。「活動③は読む力につながります。また、古典常識を深めるためには有効だと思います」と話す。昔と現代とでは価値観や常識が異なり、生徒には異文化コミュニケーションといっても良いが、こうした古典の世界

観を生徒たちはわかっていないと中島先生は感じており、古典常識を身につけることは読む力にも有効だと考えている。そして、活動④では「未来人」の目線で筆者や登場人物の悩み相談に応える。「相手が何に悩んでいるのかがわからなければ相談には乗れません。そのためには本文をしっかりと捉えることが必要です」と読む力が鍛えられる。次に活動⑤ではそれを反転させる。「悩みは今と昔で共通する点があれば、現代の人間ならではの悩みもあります。自分の悩みが千年前の貴族にはどう思われるのか」と考えてみるのだ。

この探究案2は、自己と古典とのかかわりや現代社会と古典とのかかわりについて強く意識したものだという。

最後に中島先生は「新課程は古典に限らず多くのことが盛り込まれています。限られた時間の中でどのように理想を実現するか、これからも工夫を重ねます」と力強く語ってくれた。

京都市立紫野高等学校

◇所在地：京都府京都市北区紫野大徳寺町22

◇創立：1952（昭和27）年

◇卒業生数：2022年3月卒業生272名

◇卒業生の進路：国公立大学44名／私立大学194名／短大2名
専門学校11名／その他20名／海外大学1名

理数探究

改訂のポイント

今回の改訂では、新たに共通教科として「理数」を位置づけ、「理数探究」および「理数探究基礎」が科目として設定された。

「理数探究基礎」「理数探究」では、自然現象や社会現象、先端科学や学際的領域、自然環境、科学技術、数学的事象に関して、数学的な手法や科学的な手法などを用いて探究する。多様な事象に対して、教科・科目の枠にとらわれずに多角的・複合的な視点で事象を捉え、数学・理科の考え方や手法を組み合わせ活用し探究的な活動を行う点が「数学」「理科」とは異なる特徴といえるだろう。

また、それぞれの科目について目標には大きな相違がみられないものの、「理数探究基礎」では全般的に「基本的な」という言葉が加えられている。一方「理数探究」では、数学や理科などに関する課題を主体的に設定することも想定していること、また課題の解決までではなく、探究の過程を振り返って評価・改善するところまでを目標としていることなどが異なっている。

具体的な探究のテーマとしては、「内容の取り扱い」に参考例として記載されており＜表＞、両科目とも、「ア 自然現象や社会現象」「イ 先端科学や学際的領域」「ウ 自然環境」「エ 科学技術」「オ 数学的事象」に分けて、「理数探究基礎」では合計25個、「理数探究」では合計16個挙げられている。なお、「理数探究基礎」

に比べて「理数探究」の方が、より高度な内容や詳細な分析項目を含む課題例になっている。テーマ設定に生徒が悩んでいる際は、これらやここから派生するテーマを参考に提示するのも一つの方法である。

高校教育への影響

一部の学科を除き^(注)、「理数探究基礎」「理数探究」は選択科目であり、どちらか一方のみを単独で履修することも可能である。また、とくに分野を限定することなく横断的・総合的に探究的な学習を行うものとして、そのほかに「総合的な探究の時間」が必修科目として設置されているが、「理数探究基礎」または「理数探究」の履修をもって、「総合的な探究の時間」の履修の一部または全部に替えることができる。

指導にあたっては、数学または理科の教師が行うこととされ、探究の質を高める観点から、数学および理科の教師を中心に、複数の教師が協働して指導にあたるなど指導体制を整えることにも配慮することが要請されている。探究活動に関する指導上のノウハウとしては、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）での「課題研究」における活動事例と成果の報告が参考になるものと思われる。また、知識及び技能として「数学」と「理科」での学習内容も重要になるので、履修の時期などに関して「数学」「理科」の学習進度との調整が必要になるだろう。

表 探究のテーマ例（抜粋）

	理数探究基礎	理数探究
ア 自然現象や社会現象	・振り子の性質に関する探究 ・摩擦力の大きさと面の状態の関係に関する探究	・振り子の運動に関する探究 ・成分物質の抽出・単離の手法を活用した探究
イ 先端科学や学際的領域	・リニアモーターカーに関する探究 ・太陽電池やLEDなど光素子に関わる技術に関する探究	・楽器の音の鳴り方に関する探究 ・銅樹のフラクタル成長の規則性に関する探究
ウ 自然環境	・地域の自然環境と人間生活の影響についての探究 ・葉の単位面積当たりの質量と生育環境との関係に関する探究	・身近な環境を活用した発電に関する探究 ・地域の自然環境と人間生活の影響についての探究
エ 科学技術	・遊園地の遊具の運動に関する探究 ・市販の電池の種類や構造と特性についての探究	・空気による揚力や抵抗力に関する探究 ・高分子化合物、染料、指示薬、洗剤などの合成に関する探究
オ 数学的事象	・単位分数の循環桁数に関する探究 ・三角形の中心に関する探究	・べきa^bに関する探究 ・金平糖の角の形成過程の数理モデルに関する探究

（学習指導要領解説をもとに河合塾が作成）

〔注〕「理数に関する学科」（高等学校設置基準に規定されている専門教育を主とする学科の一つであり、「理数科」「数理科学科」「自然科学科」などの呼称で設置している高校がある）では、原則として「理数探究」は、数学や理科の諸科目とともに必修科目となっている。

指定校時代に培った独自の教育手法を生かし 国際的に活躍できる「未来の科学技術者」を育てる

理数探究 広島県立広島国泰寺高等学校

Point

- ✓ SSHの活動を発展させ、教科「理数」を設置
- ✓ 1 年次 1 学期に理科 4 分野＋数学の「ミニ探究活動」を実施
- ✓ 2 学期の自然体験合宿などを通して興味のある分野を発見・選択

従来の活動をベースに 新教科「理数」のカリキュラムを構築

広島県立広島国泰寺高等学校は、1877（明治10）年に前身の広島県中学校として創立された県内屈指の歴史と伝統を持つ進学校である。2002年度に普通科に理数コースが設置され、この年度から3期連続でSSHの指定校となった。また2019年度には、イノベーティブなグローバル人材を育成することを目的とした、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の拠点校の1つに採択され、2021年度までの3年間、＜グローバルな視野と強い使命感を持って、持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献する人材を育成する＞という目標の下、国際性と独創性を育むことを2本柱とした探究活動に取り組んできた。

こうした取り組みを引き継ぐかたちで、2022年度から

は、普通科理数コースでは新設教科「理数」を設置し、「総合的な探究の時間」に替えて、第1学年で「理数探究基礎」、第2、



檜山由美子 先生

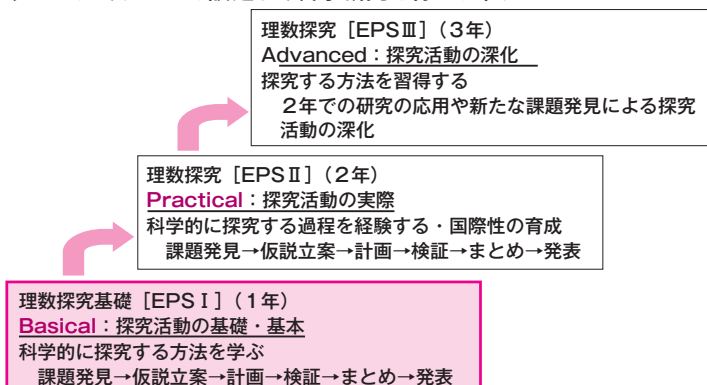


長谷清史 先生

第3学年で「理数探究」を履修することとしている。3年間の大まかな流れは＜図表1＞の通りである。第1学年では、小グループに分かれて、物理・化学・生物・地学・数学の5分野について科学的に探究する方法を学ぶ。第1学年の3学期から第2学年にかけて、5分野の中から興味・関心のある分野を選択し、グループを再編成。選んだテーマに沿って探究活動を実践する。そして第3学年では、第2学年の探究活動のさらなる深化を図る。

ちなみに図表1に記された「EPS」とは、2021年度まで「総合的な探究の時間」として設けられていた理数コース独自の授業「エクスプロアリングサイエンス（Exploring Science）」の略である。今回のカリキュラムづくりに尽力した教育研究部の檜山由美子先生（化学）は、『理数探究基礎』は教科書があるのですが、『理数探究』の教科書はまったく出版されていません。そこで本校では、これまで取り組んできた『EPS』のカリキュラムをそのまま生かしつつ、『理数探究基礎』の教科書に沿って整理していく方向で内容を詰めていきました」と話す。

図表1 広島国泰寺高校の「理数」の3年間の流れ
物理・化学・生物・地学・数学の各分野で探究の方法を学び、グループでテーマを設定して科学研究を行います。



物・化・生・地・数の5分野で

探究の基本スキルを学ぶ『ミニ探究』

第1学年が履修する「理数探究基礎」の年間スケジュール<図表2>は、主に、ミニ探究活動、自然体験合宿、SDGs関連の各種講演会、課題研究成果発表会の4つから構成されている。このうち1学期の5～6月にかけて、物理・化学・生物・地学・数学の5分野それぞれについて、探究するために必要な基本的知識や実験・観察技能などを学ぶ『ミニ探究』は、全員が5分野を体験することが特徴だ。

たとえば、2022年度実施された化学の『ミニ探究』では、2種類の溶液（A液、B液）を混合して、ちょうど30秒で色が変わるようにするには、どのような条件（2つの溶液の濃度など）を整えたらよいかという課題について、実験を通して考察する授業を行った。実験は2人1組で行い、探究のプロセスを「仮説→検証→結果→考察→新たな課題」の順にワークシートに書き込んでいく。この化学のミニ探究活動を指導した檜山先生は、授業の様子や生徒の反応について次のように振り返る。

「探究の進め方を学ぶと同時にピペットなどの器具の使い方も併せて学びます。50分間のうち15分程度を使う小さな実験ですが、最初から成功するケースは稀です。でもそこがポイントで、もっとこうすればうまく行くんじゃないかと生徒たちが気づき、よりよい方法を考えてもらうという狙いがあります。生徒の個性によって、溶液の濃度を変えて実験をたくさん繰り返す班もあれば、逆に慎重に考えすぎて実験がなかなか先に進まない班もありましたが、みんな実験に夢中で実に盛り上がっている

ました」

他分野のテーマと内容も簡単に紹介しておこう。

- ◆物理「物体の移動を解析しよう」……物体移動の実験を通して力学分野における課題研究の方法を理解する。
- ◆生物「なぞの生物の秘密を解き明かそう」……顕微鏡の使い方を覚えながら、微生物の観察やスケッチの方法を学ぶ。
- ◆地学「火成岩の観察」……校庭に転がっている岩石の観察・スケッチなどを通して、地質学の基礎知識と研究方法を学ぶ。
- ◆数学「データ整理の仕方を検証しよう」……Excelを用いたデータ整理の手法を学び、探究と数学の関わりを理解する。

事前事後学習を重視した

多彩なプログラムの自然体験合宿

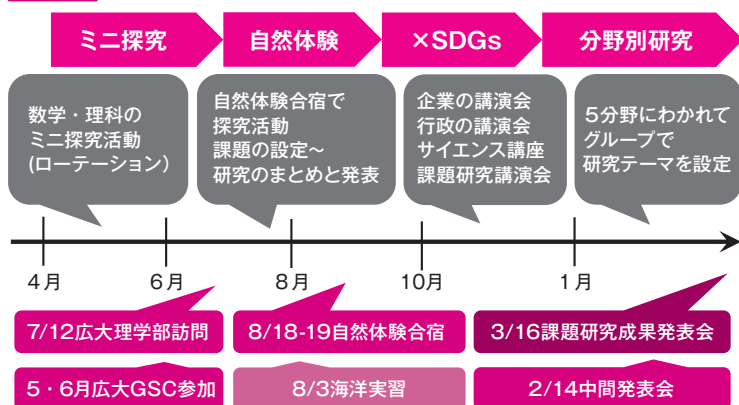
1学期で分野別「ミニ探究」を一通り学んだ後には、理数分野へのさらなる興味をかき立てるフィールドワークが用意されている。例年8月に島根県大田市三瓶山周辺を舞台に全員参加で行う1泊2日の自然体験合宿（今年度はコロナ禍の影響で11月に順延）。

1日目は、3グループに分かれて選択体験プログラム（放射線の観察、地層観察、太陽の観察）に参加。夜は「島根県立三瓶自然館サヒメル」の天文台で天体観測を体験する。2日目は、三瓶山麓に広がる北の原の高原やその周辺の森林を全員で散策し、自然観察。それぞれの班に三瓶山の自然に詳しい学芸員がつき、散策中に出合うさまざまな植物や三瓶の地形について解説してもらう。さらに、約4,000年前の縄文時代の埋没林が展示されている「さんべ縄文の森ミュージアム」を見学する。このように、地学・物理・生物の3分野を中心とした多様なプログラムを体験できる、内容の濃い野外探究学習になっている。

実施にあたっては、事前事後学習にも力を入れている。とりわけ重視しているのが、探究レポートの作成である。三瓶で取り組むプログラムのうち、自分が選択した内容についてA4用紙5枚以上のレポートにまとめ、研究発表会でクラスメイトと共有する。

「なかには、地層観察の際に許可をもらって

図表2 広島国泰寺高校「理数探究基礎」の流れ



土を持ち帰り、自宅の庭の土や校庭の土とどんな違いがあるか、自分なりの検証方法を考案して、レポートを作成する生徒もいて、生徒たちの発想の豊かさに舌を巻くことも多いです」(檜山先生)

このほかにも2学期には、広島大学大学院人間社会科学研究科の教員によるサイエンス講座や、SDGsに取り組んでいる行政や企業の講演会などを開催。3学期には、1年間の探究学習を基に、物理・化学・生物・地学・数学の5分野から自分の興味・関心のある分野を選び、新編成されたグループ(最大4名)ごとにテーマを設定するなど、第2学年の分野別研究へ向けて準備を進める。

英語で研究発表できる力を養う 第2学年「理数探究」の取り組み

分野別の本格的な探究活動に入る第2学年の「理数探究」では、具体的にどのような授業を展開していく予定だろうか。檜山先生と同じく教育研究部に所属し、現2年生の化学を担当する長谷清史先生にお話をうかがった。「課題発見→仮説立案→計画→検証→まとめ→発表という、科学的に探究する過程を経験させる流れは基本的に『理数探究基礎』と変わりませんが、実験の機会を増やすために、『理数探究』は2単位とし^(注)、週1回2時限連続の授業を実施する予定です。化学では特に、結果がわかるまでに時間を要する実験も多いですからね。もう一つ、『理数探究』における大きな目標は、各分野での研究を英語で発表する力を身につけることです。本校の理数コースの教育目標の2本柱は“独創性”と“国際性”の育成ですが、将来、科学者になって国際舞台で研究論文を発表する場合にも、英語は欠かせません」

具体的には、英語科の教員に協力してもらい、研究テーマの英語表現から始め、キーワード、イントロダクション、そして研究の内容を英語で表現するところまで、段階を経て各分野に関する英語表現を学ぶ。その仕上げとして行うのが、英語による課題研究発表会である。

「これまでも理数コース2年生の『総合的な探究の時間』で実施してきた取り組みで、広島大学の留学生に対して英語で研究発表を行います。留学生は、広島大学に協力してもらい、物・化・生・地・数の5分野それぞれ

にできるだけ近い専門分野の留学生を紹介してもらっています。どの分野も難しい専門用語ばかりだし、緊張のあまりうまく通じないこともあるのですが、実際に体験すると、『いろいろとつまづいたけど、通じた部分もあって自信がついた』『ダメなところがよくわかったのもっと英語の勉強も頑張る』といった、前向きな感想も多く聞かれます」と長谷先生が相好を崩して言う。

グループによる3年間の探究活動を 個人の成果として自信を持たせたい

第3学年の「理数探究」では、第2学年での活動の応用や新たな課題を発見など、より深化した探究活動をめざすが、指導する上で課題に感じている点について、檜山先生は次のように語る。

「グループによる探究活動のメリットとデメリットを感じています。実験やデータ整理などに関して、生徒の得意・不得意を補い合える面がある一方で、率先して研究に取り組む生徒にくっついていてだけで、自分の研究の全容をきちんと他の人に説明できない生徒も出てしまいます。そこで、研究の集大成として、グループ研究の内容を一人で発表する形式の発表会を行っています。たとえグループ研究であっても、3年間の体験や取り組みを自分の成果として誇りを持って卒業させたい。今は満足感や達成感が得られなくても、大学に進んでから高校の探究活動が実は役に立っていると実感してほしい。そこがめざすゴールですね」

各教科の授業と「理数探究基礎」「理数探究」との連携も喫緊の課題だ。それぞれの授業をうまく連携できるよう、カリキュラムの情報共有を推し進めているという。

広島県立広島国泰寺高等学校

◇所在地：広島県広島市中区国泰寺町一丁目2-49

◇創立：1877(明治10)年

◇卒業生数：2022年3月卒業生274名

◇卒業生の進路：国公立大159名／私立大82名／短大3名／専門学校2名／就職1名／その他27名

(注)「理数探究基礎」は1単位、「理数探究」は第2学年では2単位、第3学年では1単位で設置。

英語ー4教科5領域の育成と評価ー

改訂のポイント

新学習指導要領には、4技能5領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」）別の言語活動および複数の領域を結びつけた統合的な活動を通して、総合的に指導する、とある。

「話す」「書く」などの技能を統合させ、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することに一歩踏み込み、「三つの柱」に基づき、教科の目標を再整理している<図表1>。

さらに重要な点として、小・中・高校で一貫した学びを重視していることが挙げられる。各学校段階の学びを接続させるため、育成する資質・能力を「三つの柱」に整理した上で、国際的な基準であるCEFRなどを参考に、小・中・高校で一貫した「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の五つの領域の目標が設定されている。

高校教育への影響

高校では、<図表2>のように、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的に扱う科目群として「英語コミュニケーション」が、外国語による発信能力を高める科目群として「論理・表現」が設定された。新設された「論理・表現」は、①「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした発信

力の強化、②スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を中心とすること、③聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする統合型の言語活動を目的とする。

大学入試への影響

2025年度からの共通テスト『英語』の出題範囲は、「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」および「論理・表現Ⅰ」の3科目であり、名称の違いはあるが基本的にはこれまでと変更はない。大学入試センターの発表では「英語の試験形態は、引き続き、問題冊子、マークシート式解答用紙およびICプレーヤーを使用して実施する方式とする」とあることから、リーディングとリスニングの2技能を測定する試験が継続されることになる。なお、スピーキングとライティングの能力を測る試験を直接的な方式、つまり英語の音声を読み込んだり、英語を記述したりする方式の試験については、現段階では想定されていないが、今後も大学入試センターの発表を注視する必要がある。

また、新学習指導要領では、小学校で英語が教科として本格的に導入されたことで、中学・高校の学習内容も大幅に改訂された。これまでの「読む」「書く」中心の英語学習から「聞く」「話す」中心の学習に移行するにつれ、複数技能を統合した学習となり、大学入試に与える影響も大きい。簡単な英語を聞いたり、話したりすることに、より力点が置かれるが、その一方で文法学習や

英文を解釈する指導に時間を割けず、英文を正確に読む力が伸び悩む可能性もある。そのため、4技能5領域をバランスよく学習することがますます重要になるだろう。

図表1 「三つの柱」に再整理された英語の目標

三つの柱	目標
知識及び技能	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。
思考力、判断力、表現力などの能力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
学びに向かう力、人間性等	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

（図表1、2ともに学習指導要領解説をもとに河合塾が作成）

図表2 高校での科目構成

科目	標準単位数	必修修科目
英語コミュニケーションⅠ	3	○2単位まで減可
英語コミュニケーションⅡ	4	
英語コミュニケーションⅢ	4	
論理・表現Ⅰ	2	
論理・表現Ⅱ	2	
論理・表現Ⅲ	2	

“イングリッシュ・リッチ”な授業で英語力を向上 自分が発信したいことを英語で発信する機会が大切

英語

芝浦工業大学柏中学高等学校

Point

- ✓ 4技能5領域を総合的に育成する英語教育を4～5年前から展開
- ✓ 会話の中で表現を修正しながらスピーキング力を向上
- ✓ 世界標準の教材で日本語を介さず英語で考え、発信する力を育成



佐藤修二 先生

大学入試は通過点の一つ

大学や社会で英語を用いて活躍できるよう授業を改変

芝浦工業大学柏中学高等学校では、スピーチやプレゼンテーション、ディベートなどのさまざまなアクティビティを通して、生徒が英語 (English) を豊か (rich) に使いながら、英語運用能力を高めることに力を入れた英語教育を行っている。授業では、ケンブリッジ出版の教材を用いてオーセンティックな英語に触れ、英語で何を学ぶか、英語で何ができるかに焦点を当てている<写真>。さらに、英語を聞き取れる、理解できるだけではなく、内容についての考えを深めることに重点を置き、英語での思考力とグローバル社会における対話力を養っているという。

同校で英語を担当する佐藤修二先生は、こうした英語教育に力を入れる理由を「本校ではほとんどの生徒が大学に進学するため入試対策も行いますが、入試は人生の通

過点の一つにすぎません。生徒が大学で研究する上で、英語で情報を得たり発信したり、就職後も英語を用いて世界で活躍できるようになることを目標に、“イングリッシュ・リッチ”な授業を掲げています」と話す。授業では、生徒が英語を使うワークを多く取り入れているようだ。

“イングリッシュ・リッチ”な授業を始めたのは5～6年前のことだ。英語の教員数名が自発的に行っていた取り組みが徐々に英語科全体に広がり始め、同校の英語科として育成したい5つの力をシラバスにまとめたところ、ちょうど新学習指導要領における、4技能5領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた統合的な活動を通して、総合的に育成するという目標に合致したという。

具体的には、検定教科書を使いつつ、英語で意見をやりとりするワークを取り入れる、教科書の題材を使って個人やグループでディベートやスピーチを行うといった授業を展開している。

こうした授業を重ねる中、佐藤先生は「4技能5領域

写真 同校における英語の授業の様子



のうち指導が最も難しかったのはスピーキングでした」と話す。

「まずはたくさん話す機会を設けることが大切です。生徒同士で話す機会を作るのは容易ですが、会話に行き詰まると日本語が混ざってしまったり、間違った表現を使ってしまう場合もあります。授業中、教師がクラス全体に対して、ある程度正しい英語になっているかどうかや相手に通じているかのチェックをするには限界がありますし、間違った英語のままいくらたくさん会話しても英語力は高まりませんから、対策が必要だと感じました」

そこで、3～4年前からスピーキング力強化のために、高1と高2にはオンライン英会話を取り入れた。毎週25分間、授業内で外国人講師とマンツーマンで会話するのだ。

「講師は、会話しながら間違いを指摘したり、生徒の簡単な表現を別の表現で言い直してくれたり、気づきを促してくれます。生徒は会話をしながら、適切な英語表現や多様な言い回し、語彙を学ぶことができるようになりました」と、新課程では文法指導が手薄になりがちだという懸念があるが、この点でもオンライン英会話が一役買っているようだ。

また、ライティングの指導にも工夫がある。「書く」活動を充実させてはいるが、生徒一人一人に対し、まとまった文章を丁寧に添削するのは教員の負担が大きい。同校では生徒が一人一台PCを所有しているため、授業支援ツールを使って教員の負担を軽減しつつ、間違った表現を訂正したり、別の表現を教える機会を設けている。

「たとえば、教室のスクリーンに生徒全員の文章を映して共有し、一人の文章を拡大表示して『Aさんの意見はこうで、こんな表現を使っているね。ほかの表現を使った人はいる？』というように生徒とやりとりしながら、多様な表現に触れられるようにしています」

同校は、最難関国公立大学をめざすグローバル・サイエンスコースと、国公立大学と難関私立大学をめざすジェネラル・ラーニングコースを設置している。グローバル・サイエンスコースでは、高1・高2を対象に、ブリティッシュ・カウンシルから講師を招いて「アカデミックライティング」の授業を行っている。

「2004年度にはじめてSSHに指定された際、理科以外の教科も生徒の探究活動に関わることになり、英語科では、英語で論文を書いたり発表したりする力を育成することにしたのがきっかけです」

ちなみに、高3は、東京大や一橋大の入試などの英作文につながるよう、文章を論理的に書く授業を行っている。

考えや意見を発信するテーマは 教科書のトピックを中心に洋書の副教材を活用

新課程では、「英語コミュニケーション」は4単位ずつ、「論理・表現」は2単位ずつ、各学年に設置している。

「英語コミュニケーション」の教科書を選ぶにあたっては、生徒が英語を使ってやりとりしながら4技能5領域を育成する授業を実践しやすいものを探したという。

「多くの出版社から教科書が発行されていますが、『英語コミュニケーション』は全般的に、4技能5領域をまんべんなく学べるような箇所が増えた印象です。『論理・表現』は現行課程の『英語表現』に比べて、あるトピックに対して自分の意見を論理立てて形成し、最後にエッセイとして意見を表現する、といった構成の教科書が多く見られました。本校を選んだのは、ケンブリッジ大学出版局が、新学習指導要領に合わせて編集した検定教科書の『Cambridge Experience 1』です。日本語が一切使用されておらず、解説も設問も全て英語で書かれている教科書で、ネイティブスピーカーが使うような表現も少し出てきます。4技能5領域をバランスよく学べる構成になっていて、このページはリスニング、このページはスピーキング、というように、レッスンごとに注力する技能が示されているので、生徒はその時間、特に意識するポイントがわかります」

また、授業では基本的に教科書のトピックを題材にして、長期休暇の際には生徒が興味を持ったトピックや社会的なトピックにも触れる機会を設けている。

「夏期と冬期休業期間には、洋書を読み、休暇明けにその内容についてグループでプレゼンテーションします。具体的には例年は『オックスフォード・リーディング・ツリー』^(注)から、各学年の学力に応じたレベルの本を何冊か提示し、生徒はそこから興味のある本を選びます。

(注)『オックスフォード・リーディング・ツリー』：<https://www.oupjapan.co.jp/ja/gradedreaders/ort/index.shtml>

1冊だけ指定することもあり、ある年の高2の冬には、SDGsについて考える意図も込めて『Global Issues』を指定しました。コロナ禍のため、この年は各自が関心を持った課題を選んで、その理由や解決に向けた提案をまとめ、ポスター発表をしました」

ほかにも、コロナ禍以前は、高2でオーストラリア研修旅行を実施しており、高1の冬休みに班ごとにオーストラリアの食べ物、気候、というように分担を決めて調べて英語でまとめるなど、生徒が興味を持ちそうなテーマを選んでいる。

グローバルに活用される英語教材と 英語検定試験で世界標準の英語力を育成

以上のように、同校の英語は、ケンブリッジ大学出版局やオックスフォード大学出版局の英語教材を多用しているのも特徴だ。中学でも、昨年度から副教材としてケンブリッジ大学出版局の『Shape It!』を採用しており、過去には『Grammar in Use』を使ったこともある。

「イギリスの英語教材は全て英語で書かれており、教員も生徒も、頭の中で一度日本語を介さずに英語で理解したり、考えたり、発信したりできるように思います。世界の英語学習者が使っている教材だということも、魅力です」

さらに、2022年度からは学校全体でCEFRに完全準拠した「ケンブリッジ英語検定 (P24参照)」を導入し、各学年で国際標準の英語力を測定している。同校が使用する教科書に対応していることはもちろん、定期テストで

は測ることが難しいリスニングやスピーキングの力も測定できるからだ。面接はネイティブスピーカーが対応することに加え、1日で4技能まとめて実施でき、事務局が来校して実施するため、運営面でも教員の負担が小さいことなどが決め手となったという。また2022年の夏には、2名の英語科教員がCambridge University Press & Assessment が提供する、英語を第一言語としない人に教えるための国際的な英語教授法の資格『CELTA』を取得し、その教授法を共有している。

佐藤先生は、「英語も日本語も、言語は物事を伝えたり考えたりするツールです。本校は、幸いSSHの認定を受けたこともあり、探究活動の結果を、英語によって学外で発表する機会にも恵まれています。世界大会に出場した生徒もいます。英語の授業の中で使うだけでなく、興味があることを外部に発信することで英語が好きになり、それがきっかけとなってさらに英語の学習意欲を高めてくれるとよいですね」と期待している。

芝浦工業大学柏中学高等学校

◇所在地：千葉県柏市増尾700

◇創立：1980 (昭和55) 年

◇卒業生数：2022年3月卒業生285名

◇卒業生の進路：国公立大34名／私立大197名（うち海外大学1名）／短大1名／専門学校1名／その他52名

英語教育に関する イベント

芝浦工業大学柏中学高等学校の実践やケンブリッジ英語検定の活用方法をもっと知りたい方はぜひご参加ください。

名 称 河合塾 教員セミナー「英語4技能5領域の育成と評価」

日 時 11月4日 (金) 18:30～20:30 (オンライン開催／参加費無料)

内 容 講演1 「技能統合型の授業実践についてーICT活用も視野に入れてー」
東京都立千早高等学校 中村隆道先生

講演2 「使って身につくコミュニケーション英語の実践例」
芝浦工業大学柏中学高等学校 山崎奈々先生

講演3 「世界標準の英語試験のすすめーCEFRを通じた言語能力の共通化ー」
Cambridge University Press & Assessment 青山智恵氏

申込方法 FAXによるお申込み

※詳細は、河合塾営業担当者またはアセスメント事業推進部 (03-6811-5520) までお問い合わせください。

統計教育

統計教育は「数学」が担う部分が大い 指導のポイントとなるのは「仮説検定」

数学・情報 立命館宇治中学校・高等学校

Point

- ✓「情報」と「数学」の共通点・接点が統計教育
- ✓ 共通テスト『情報』のサンプル問題からもうかがえる数学の役割の大きさ
- ✓「仮説検定」の授業経験が少ない先生方は、十分な準備が必要になる



稲葉芳成 先生

統計教育を主に担うのは算数・数学科 「情報」と「数学」の共通点としての統計教育

国立大学協会が2025年度共通テストで「情報」を原則として課すなど、データサイエンス・統計教育への社会的関心は高まっている。高校でも新学習指導要領のもと、数学科と情報科で統計教育の充実が図られている。

立命館宇治中学校・高等学校の稲葉芳成先生は、現高校2・3年生が履修している学習指導要領（現行課程）から統計教育が充実してきたと指摘する。数学教育では統計教育の空白の時代が長く続いていたが、数学Ⅰに「データの分析」が入り、必修科目に統計分野が設けられた。現行課程の数学Bでは、ほとんどの生徒が「数列」「ベクトル」を選択履修し、「確率分布と統計的な推測」は選択されないという実態もあった。それでも「小学校、中学校、高校までの算数から数学へという大きな流れの中で、統計教育が位置づけられてきました」と統計教育を主に扱ってきたのは、算数・数学科だと話す。

それに対して、教科「情報」は、高校の新しい教科として設けられた。当初はタイピングや表計算ソフトなどのリテラシーを教える比重が大きかったが、「情報教育はICTのハードウェア、ソフトウェアの進化に連動して変わります。しかも、近年、リテラシーは生徒が個別に能力を身につけてきました」とその学習内容は変化して

いると話す。中でも発展してきているのがビッグデータやデータサイエンスの分野だ。「データサイエンスにウエイトが置かれるようになった結果、統計教育という数学との共通点、接点が出てきました」と「数学」と「情報」との関係を整理する。

新学習指導要領では、「数学Ⅰの『データの分析』であれば、『数学的活動を通して』とあり、情報Ⅰの『情報通信ネットワークとデータの活用』では、『サービスを活用し、問題を発見・解決する活動を通して』とあるように、『数学』では数学的理解を伴った上で統計を身につけ、『情報』ではユーザーとして統計を活用するという方向性なのだと思います」と教科による違いを意識した内容となっていると指摘する。

共通テスト『情報』サンプル問題における統計の出題 現状の「情報」の授業では対応が難しい

上述のように、新学習指導要領では、「数学」と「情報」の連携や役割の違いなどが示されているが、統計教育という観点では、「数学」が担う役割が大きくなるを得ないと言えそう。その理由は、2021年3月に公表された共通テスト『情報』のサンプル問題にある。取りわけ、第3問（サッカーチームの対戦成績とパスの関係等の問題）については、高校現場ではある種の驚きがあったと言う。「問題を見ると、多くが数学Ⅰの『デー

表 新学習指導要領、新課程入試での統計教育のポイント

	数学	情報
学習指導要領	数学Ⅰ「データの分析」で「仮説検定の考え方」、 数学Ⅱ「統計的な推測」で「仮説検定」を扱う	情報Ⅰ「(4)情報通信ネットワークとデータの活用」 で統計の学習
新課程入試 (2025年度共通テスト)	「数学②」では、数学Ⅱ（数列、統計的な推測）、 数学Ⅲ（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面） の4項目のうち3項目を選択解答	情報Ⅰを範囲とする「情報」が新設 サンプル問題第3問でも統計が含まれる出題

(河合塾作成)

タの分析』からの出題だと言っても過言ではありません。そのため、情報科や数学科の先生方から驚きや戸惑いの声が聞かれました」

「情報」の問題として出題されるのであれば、本来ならば情報科で対応すべきだが、多くの高校では「情報」は2単位としているケースが多い。時間数の制約があるのだ。その中で情報リテラシーに加え、情報セキュリティや著作権などの比重も増しており、現状では「情報」の授業で対応するのは難しいとのことだ。また、「情報Ⅰ」の教科書を複数確認しましたが、サンプル問題に対応できる内容まで書かれている教科書は限られます」と教科書各社の内容のバラツキも大きい点を指摘する。

「数学」の授業で対応する場合でも課題はある。学習指導要領では、数学Ⅱは「数列」「統計的な推測」「数学と社会生活」の3項目から2項目を選択履修することになっている。「情報のサンプル問題は単回帰直線を扱っていますが、数学Ⅱの『数学と社会生活』でしか扱われていません。多くの高校では、数学Ⅱは『数列』と『統計的な推測』を選択し、『数学と社会生活』を学ぶことはかなり少ないでしょう」と話す。「数学」でも扱いきれない分野が共通テスト「情報」で出題される可能性も含まれている。

ポイントとなるのは、数学Ⅰ「データの分析」 数学Ⅱ「統計的な推測」とともに「仮説検定」

2025年度の共通テスト「数学②」の出題範囲は、数学Ⅱに加えて数学Ⅱ（数列、統計的な推測）、数学Ⅲ（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）の4項目の問題から3項目の問題を選択解答することがすでに公表されている。そのため、統計分野の問題を選択解答する受験生がこれまでよりも多くなることが予想される。

数学Ⅰ「データの分析」、数学Ⅱ「統計的な推測」の指導のポイントはどこにあるのだろうか。数学Ⅰについては、「新しく増えた『仮説検定の考え方』をクリアすれ

ば従来通りの指導で対応できるでしょう」と話す。ただし、「多くの学校では数学Ⅰは数学Ⅱと同時併習となるため、数学Ⅱの『場合の数と確率』を履修しているという前提が必ずしも成り立ちません」と学習指導要領の限界を考慮した指導が必要になる。稲葉先生は個人の感覚的な見解とした上で「数学Ⅰで扱うのは『仮説検定の考え方』です。教科書では、実際に検定を行うというより、『考察する』ことになっています。確率的に判断するよさについて理解するまでで良いのですが、可能な範囲で確率分布の理論を踏まえ、ここで一気に仮説検定を教えた方が、数学Ⅱでも教えるという重複がなくなり、結果として生徒の理解も早いと思います」と指導案についての考えを巡らせている。

数学Ⅱ「統計的な推測」についても、「現行課程の『確率分布と統計的な推測』に『仮説検定』がプラスされたと捉えて良いと思います」と話し、ここでも「仮説検定」がポイントになると見ている。ただし、前述のように高校での統計教育には空白期間がある。年代によっては、高校時代に統計分野を学習していない先生方が一定数存在することも考えられる。稲葉先生もこの点については「大学で統計学を学んでも、生徒に教えることが初めてという先生方も少なからずいると思います。『仮説検定』の理論をしっかりと押さえた上でご指導いただく必要があります」と十分な準備が大事なポイントであることを指摘した。

立命館宇治高等学校

◇所在地：京都府宇治市広野町八軒屋谷33番1

◇創立：1965(昭和40)年 ※1994年法人合併により「宇治高等学校」を「立命館宇治高等学校」に改称

◇卒業生数：2022年3月卒業生356名

◇卒業生の進路：立命館大学299名／立命館アジア太平洋大学7名／他大学・他進路等50名（うち海外大学18名）

消費者教育

消費者教育は成年年齢引下げにより重要に 事例を活用して消費者教育を身近に

公民・家庭 群馬県

Point

- ✓ 成年年齢引下げにより新学習指導要領でも消費者教育に関する記載が登場
- ✓ 公民科では社会的な背景、家庭科では実務的な面を扱う
- ✓ 群馬県では使いやすさを意識した教材を作成し、現場では事例等を活用

新学習指導要領でも言及される消費者教育 『自立した消費者』の育成が重要

2022年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられ、さまざまな変更が生じる<表1>。新学習指導要領上でも成年年齢引下げに関して触れられており、特に公民科・家庭科では<表2>のような記載がある。

群馬県教育委員会の指導主事である赤井恵美子先生（家庭科）と毒島章先生（公民科）に、消費者教育の各教科での扱いとその変化、指導上のポイントをうかがった。

そもそも、消費者教育が注目される背景として、毒島先生は、「消費者トラブルへの懸念もありますが、トラブルに直面したときの対処方法を理解しておくことが重要です。『自立した消費者』と言われるように、成年年齢の引下げによって、大人として社会の一員になる時期が早まることから、生徒一人ひとりが消費者として自立

した存在へと成長することが大切だと思います」と話す。

一方、赤井先生は、「成年年齢引下げによって、高校1・2年生が成年になる前に消費者教育を学ぶことができる最後のチャンスであることも注目される要因だと考えられます」と話す。

家庭科における消費者教育の内容について、赤井先生は、「消費者教育については、これまでも家計の構造や生活における経済と社会の関わり、収支バランスの重要性、悪質商法や多重債務などを扱ってきました。そこに、生涯を見通した経済計画の中で、家計管理の一部として、基本的な金融商品の特徴や資産形成の内容が加わりました」と話す。

公民科について毒島先生は、『現代社会』が廃止され、『公共』が新科目として設けられました。取り扱う内容は重複している部分もありますが、『公共』での消費者教育は、生活に必要な「私法」として学ぶこととなります。多様な契約によって、土地・建物・金銭の貸し借り、雇用などの多様な活動が行われ、それによりさまざまな責任が生じることについて扱います。『自立した消費者』として必要となる、根幹の理解を図るような学習が多いことが特徴といえます」と話す。また、教科書を見ると、自分事になるような問い（疑問）や、消費者教育に関するコラム等が増えた印象だという。

また、高校教育の中で消費者教育を行うポイントについて毒島先生は、『成年年齢引下げで何が変わるのか』

表1 成年年齢引下げ 18歳になったらできること

- ①親の同意のない契約
- ②10年有効のパスポートの取得
- ③公認会計士・医師免許等の国家資格の取得
- ④結婚（親の同意なく可、男女ともに18歳に統一）
- ⑤民事裁判
- ⑥性同一性障害の人が性別の取扱いの変更審判を受ける
- ⑦裁判員に選ばれる

等

（河合塾作成）

表 2 「公共」「家庭基礎」の学習指導要領における、成年年齢引下げと消費者教育に関する記載（一部抜粋）

公共	なお、平成30年6月の民法の改正により令和4年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられ、18歳から一人で有効な契約をすることができるようになる一方、保護者の同意を得ずに締結した契約を取り消すことができる年齢が18歳未満までとなることから、自主的かつ合理的に社会の一員として行動する自立した消費者の育成のため、また、若年者の消費者被害の防止・救済のためにも、こうした消費者に関する内容について指導することが重要である。^(※)
家庭基礎	・消費生活・環境については、成年年齢の引下げを踏まえ、契約の重要性や消費者保護の仕組みに関する内容を充実するなど、消費者被害の未然防止に資する内容の充実を図った。 ・成年年齢の引下げを踏まえ、「C 持続可能な消費生活・環境」において、契約の重要性や消費者保護に関する内容の充実を図った。

※ほぼ同一の内容が「家庭基礎」の学習指導要領にも記載

ということをしつかり理解させる必要があります。その上で、進学する生徒が多いのか、就職して社会に出る生徒が多いのかなど、各校の実態や生徒の実情が異なるでしょうから、そのことに配慮しつつ、体験的、実践的な学習の機会を確保する必要があります。また、インターネットの活用などにより、契約の機会が増え、契約の知識が今まで以上に必要となっていることを気づかせることが重要です。身近な具体例を通して、よりリアルな問題として実感させることで、その契約が本当に必要なかと、一度立ち止まって考えさせる機会を確保してあげることが大切ではないでしょうか」と話す。

家庭科では自分事として消費者教育を捉え 公民科ではその社会的背景を知る

では、授業内での消費者教育はどのように進めていくのだろうか。群馬県立高崎北高等学校の井田綾先生（公民科）と、群馬県立吉井高等学校の山田有佳里先生（家庭科）にうかがった。

山田先生は、「家庭科では、消費者教育で扱う内容を自分事として捉えることを意識して授業をしています。たとえば、契約に関する未成年者取消権、クーリング・オフ、クレジットカードと通販の注意点、消費者トラブルに巻き込まれたら、などトピックはさまざまですが、実際の事例を紹介したり、ロールプレイを取り入れたりしています。また、手取りのお金でどう生活するか、グループで疑似家族を作って、生計の立て方をシミュレーションするなどの工夫をしています」と話す。

高崎北高校では、「公共」を2年次で実施するため、今後の展望にはなるが、井田先生は「『公共』では社会的な視点や消費者の責任・義務、自立した消費者としての意識、行動の仕方を学習し、消費者トラブルを生みにくい社会を作ることを目標にしています。高1の家庭基礎で扱う悪質商法、クーリング・オフなどの内容を踏ま

えた上で、民法や消費者基本法とのかかわりなど、法律にも触れながら進めていきたいと考えています」と話す。

家庭科と公民科での消費者教育の扱いの違いとしては、「実務的なところを家庭科、社会的な背景などの面は公民科で扱う」（井田先生）とのことだ。

使いやすさを意識した教材を作成 現場では事例集の活用

群馬県生活こども部消費生活課では、成年年齢の引下げに伴う消費者トラブルの未然防止を主な目的として、教育委員会、高校教諭、弁護士会などと共に「消費者教育検討会」を立ち上げ、県消費者教育コーディネーターを中心に独自の教材^(注)を作成した。

消費生活課の有賀美帆主任は、限られた時間の中で検討会としての意見をまとめて教材にするのが大変だったとしつつも、パワーポイント教材であり先生方が必要な部分を取り出して加工して使用できること、県内の相談事例を扱っていることがこの教材の強みだと語る。

教材の活用場面・活用方法について、有賀主任は、「家庭科や公民科の授業はもちろん、学校のあらゆる場面で使ってほしいです」と話す。

山田先生、井田先生も教材の作成に携わっており、実際の指導でも活用している。特に、「事例集」をよく使っており、「抽象的な話だと実感してもらいにくい部分を、自身の居住県内で実際に起こったことを具体例として、より身近に、自分事として考えてもらうのが狙いであり、教科書を補完する位置づけとして活用しています」（井田先生）とのことだ。

最後に、消費者教育に関する公民科と家庭科での協働や連携、今後の構想などについてもうかがい、山田先生は、「現状ではなかなか実践できてはいないものの、公民科と家庭科の教員が連携し、チームティーチングで行うことも可能だと思います」と話してくれた。

(注) 独自の教材：「ぐんま版消費者教育教材」 URL：https://www.pref.gunma.jp/05/c0900482.html
なお、パワーポイントでの教材活用は群馬県内に限っているが、PDF版は他県でも閲覧できる。